



【基本情報】

配当年次	3 学年	担当教員	柳原 功典	
単位数	1 単位		実務経験	
開講学期	1 学期	授業形態・回数	講義	12回

【授業情報】

授業概要	生体の構造機能を学ぶことは医学的な専門科目を学ぶ上での基礎となり、正常な構造機能が破綻した状態である疾病を理解するための基盤として重要であるため、人体の正常な構造機能を学んでいく。今までに学んだ解剖学をもとに、国家試験に出題される範囲を中心に、講義と問題演習を行う。
授業の一般目標 (G10)	人が罹患する疾病を理解するために、医療従事者の共通用語である人体の各器官の機能について理解するとともに、その評価方法についても学習する。国家試験に合格するために、解剖学について、理解を深め、国家試験レベルの問題に正しく解答できる力を身につける。
到達目標 (SBOs)	<ul style="list-style-type: none"> ・運動器と末梢神経について理解することができる。 ・上肢の主要な関節の構造と主動作筋について理解することができる。 ・上肢領域の体表・局所解剖学について理解することができる。 ・下肢の主要な関節の構造と主動作筋について理解することができる。

【担当教員から】

教科書	解剖学（学校協会編）
参考書	
成績評価基準	授業の理解度 基本的知識の習得 知識の応用力 以上を学期末試験にて評価を行う。
成績評価方法	<p>1 学業成績の評価は、試験の成績、実習の成果及び履修状況等を総合的に勘案して行う。但し、授業時間数における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。</p> <p>2 成績評価の基準は次のとおりとし、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。 (1) A：100～90点 (2) B：89～70点 (3) C：69～60点 (4) D：60点未満</p>
授業時間外必要な学修	教科書、参考書を基に予習・復習を行うこと
履修にあたっての留意点	

【授業計画】 構造機能学 I-3 2022年度 I 部鍼灸マッサージ科

学期	回数	講義内容	備考	講義形態
	1		筋の区分と抽経支配	講義

1期	2	運動器と末梢神経	脊髄神経の構成と各神経叢 骨の連結や関節の構造	講義
	3			講義
	4			講義
	5			講義
	6	上肢の主要な関節の構造と主動作筋 上肢領域の体表・局所解剖学	上肢帯の運動 肩関節、肘関節、手関節 体表・局所解剖学	講義
	7			講義
	8			講義
	9			講義
	10	下肢の主要な関節の構造と主動作筋	股関節、膝関節	講義
	11	試験		試験
	12	試験解説	試験内容のフィードバック	講義
2期	13			
	14			
	15			
	16			
	17			
	18			
	19			
	20			
	21			
	22			
	23			
	24			
3期	25			
	26			
	27			
	28			
	29			
	30			
	31			
	32			
	33			
	34			
	35			
	36			

【授業進度表】 構造機能学Ⅰ-3 2022年度 I 部鍼灸マッサージ科				
学期	回数	講義内容	担当者確認	主任確認
	1			
	2	運動器と末梢神経		
	3			
	4			

1期	5			
	6	上肢の主要な関節の構造と主動作筋 上肢領域の体表・局所解剖学		
	7			
	8			
	9	下肢の主要な関節の構造と主動作筋		
	10			
	11	試験		
	12	試験解説		
2期	13			
	14			
	15			
	16			
	17			
	18			
	19			
	20			
	21			
	22			
	23			
	24			
3期	25			
	26			
	27			
	28			
	29			
	30			
	31			
	32			
	33			
	34			
	35			
	36			

【科目】 構造機能学Ⅱ-3

【基本情報】

配当年次	3 学年	担当教員	柳原 功典	
単位数	1 単位		実務経験	
開講学期	2 学期	授業形態・回数	講義	12回

【授業情報】

授業概要	生体の構造機能を学ぶことは医学的な専門科目を学ぶ上での基礎となり、正常な構造機能が破綻した状態である疾病を理解するための基盤として重要であるため、人体の正常な構造機能を学んでいく。今までに学んだ解剖学をもとに、国家試験に出題される範囲を中心に、講義と問題演習を行う。
授業の一般目標 (GIO)	人が罹患する疾病を理解するために、医療従事者の共通用語である人体の各器官の機能について理解するとともに、その評価方法についても学習する。国家試験に合格するために、解剖学について、理解を深め、国家試験レベルの問題に正しく解答できる力を身につける。
到達目標 (SBOs)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 下肢領域の体表・局所解剖学について理解することができる。 ・ 頭部と体幹の体表・局所解剖学について理解することができる。 ・ 末梢神経まとめについて理解することができる。 ・ 解剖学の概論について理解することができる。 ・ 運動器について理解することができる。

【担当教員から】

教科書	解剖学 (学校協会編)
参考書	
成績評価基準	授業の理解度 基本的知識の習得 知識の応用力 以上を学期末試験にて評価を行う。
成績評価方法	1. 学業成績の評価は、試験の成績、実習の成果及び履修状況等を総合的に勘案して行う。但し、授業時間数における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。 2. 2 期試験に代わって実施される、一次卒業試験の範囲の結果で評価する。
授業時間外必要な学修	教科書、参考書を基に予習・復習を行うこと
履修にあたっての留意点	

【授業計画】 構造機能学Ⅱ-3 2022年度 I 部鍼灸マッサージ科

学期	回数	講義内容	備考	講義形態
	1			

1期	2			
	3			
	4			
	5			
	6			
	7			
	8			
	9			
	10			
	11			
	12			
2期	1	下肢領域の体表・局所解剖学	足関節	講義
	2		体表・局所解剖学	講義
	3	頭部と体感の体表・局所解剖学	顎関節	講義
	4		脊柱の構造・靱帯	講義
	5		頰部の区分	講義
	6	末梢神経まとめ	体表・局所解剖学	講義
	7		体幹の横線と椎骨の高さ	講義
	8			講義
	9	解剖学概論まとめ 運動器まとめ	脳神経	講義
	10		脊髄神経	講義
	11		自律神経	講義
	12		問題演習	講義
3期	1			
	2			
	3			
	4			
	5			
	6			
	7			
	8			
	9			
	10			
	11			
	12			

【授業進度表】 構造機能学Ⅱ-3 2022年度 I 部鍼灸マッサージ科					
学期	回数	講義内容	担当者確認	主任確認	
1期	1				
	2				
	3				
	4				
	5				
	6				

	7			
	8			
	9			
	10			
	11			
	12			
2期	1	下肢領域の体表・局所解剖学		
	2			
	3	頭部と体感の体表・局所解剖学		
	4			
	5			
	6	末梢神経まとめ		
	7			
	8			
	9	解剖学概論まとめ 運動器まとめ		
	10			
	11			
	12			
3期	1			
	2			
	3			
	4			
	5			
	6			
	7			
	8			
	9			
	10			
	11			
	12			

【分野】 専門基礎分野 人体の構造と機能

【科目】 構造機能学Ⅲ-2

【基本情報】

配当年次	3 学年	担当教員	金子 泰久	
単位数	1 単位		実務経験	
開講学期	1 学期	授業形態・回数	講義	12回

【授業情報】

授業概要	各器官系における生体の機能を理解した上で、器官相互の有機的な繋がりを学ぶ。 鍼灸マッサージ師の分野で必要な生理学的知識を確認する。また、演習問題により国家試験の傾向と対策を学ぶ。 今までに学んだ「病理学」をもとに、国家試験に出題される範囲を中心に、講義と問題演習を行い、合格する為の力を身につける。
授業の一般目標 (GIO)	国家試験に合格するために、人体構造機能学の知識を「生理学」として系統的に理解し、国家試験レベルの問題に正しく解答できる力を身につける。 国家試験に合格するために、病理学について総括し、理解を深め、国家試験レベルの問題に正しく解答できる力を身につける。
到達目標 (SBOs)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人体の正常な構造機能と循環について理解することができる。 ・ 人体の正常な構造機能と免疫について理解することができる。 ・ 人体の正常な構造機能と内分泌について理解することができる。 ・ 人体の正常な構造機能と自律神経について理解することができる。 ・ 人体の正常な構造機能と筋と運動について理解することができる。

【担当教員から】

教科書	生理学（第3版）：東洋療法学校協会編 病理学（第2版）：東洋療法学校協会編
参考書	
成績評価基準	授業の理解度 基本的知識の習得 知識の応用力 以上を学期末試験にて評価を行う。
成績評価方法	<p>1 学業成績の評価は、試験の成績、実習の成果及び履修状況等を総合的に勘案して行う。但し、授業時間数における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。</p> <p>2 成績評価の基準は次のとおりとし、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。 (1) A：100～90点 (2) B：89～70点 (3) C：69～60点 (4) D：60点未満</p>
授業時間外必要な学修	教科書、参考書を基に予習・復習と発展を行うこと
履修にあたっての留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業中のスマートフォン、携帯電話の使用は原則禁止 ・ 教科書中心の予習、復習と発展をすること

学期	回数	講義内容	備考	講義形態
1期	1	人体の正常な構造機能と病理（循環）	心周期と心電図、循環の調節	講義
	2	人体の正常な構造機能と病理（循環）	循環障害	講義
	3	人体の正常な構造機能と病理（免疫）	生体の免疫反応、炎症とアレルギー	講義
	4	人体の正常な構造機能と病理（免疫）	免疫系の異常	講義
	5	人体の正常な構造機能と病理（内分泌）	おもな内分泌腺の位置、分泌されるホルモンと働き	講義
	6	人体の正常な構造機能と病理（内分泌）		講義
	7	人体の正常な構造機能と病理（自律神経）	自律神経の作用、神経伝達物質、受容体	講義
	8	人体の正常な構造機能と病理（自律神経）		講義
	9	人体の正常な構造機能と病理（筋と運動）	興奮収縮連関	講義
	10	人体の正常な構造機能と病理（筋と運動）	徒手検査に用いる主な反射とその機序	講義
	11	試験		試験
	12	試験解説	試験内容のフィードバック	講義
2期	13			
	14			
	15			
	16			
	17			
	18			
	19			
	20			
	21			
	22			
	23			
	24			
3期	25			
	26			
	27			
	28			
	29			
	30			
	31			
	32			
	33			
	34			
	35			
	36			

【授業進度表】 構造機能学Ⅲ-2 2022年度 I 部鍼灸マッサージ科				
学期	回数	講義内容	担当者確認	主任確認
	1	人体の正常な構造機能と病理（循環）		
	2	人体の正常な構造機能と病理（循環）		

1期	3	人体の正常な構造機能と病理（免疫）	
	4	人体の正常な構造機能と病理（免疫）	
	5	人体の正常な構造機能と病理（内分泌）	
	6	人体の正常な構造機能と病理（内分泌）	
	7	人体の正常な構造機能と病理（自律神経）	
	8	人体の正常な構造機能と病理（自律神経）	
	9	人体の正常な構造機能と病理（筋と運動）	
	10	人体の正常な構造機能と病理（筋と運動）	
	11	試験	
	12	試験解説	
2期	13		
	14		
	15		
	16		
	17		
	18		
	19		
	20		
	21		
	22		
	23		
	24		
3期	25		
	26		
	27		
	28		
	29		
	30		
	31		
	32		
	33		
	34		
	35		
	36		

【科目】 臨床医学Ⅴ

【基本情報】

配当年次	3 学年	担当教員	佐藤 亨子	
単位数	3 単位		実務経験	
開講学期	1 学期・2 学期・3 学期	授業形態・回数	講義	36回

【授業情報】

授業概要	はり、きゅう、あん摩マッサージ 指圧臨床の際に必要な代表的疾病について基本的な理解を促すとともに、それまでの学習内容を振り返り発展と応用に結びつける。 新たな学習範囲としては、精神科・心療内科疾患および老年医学の概要について学ぶ。
授業の一般目標 (GIO)	精神科・心療内科・小児科および老年医学領域で扱う代表的な疾患について、各々病気の概要（成り立ち、症状および治療）を学習する。 鍼灸臨床の基礎となる臨床医学一般のうち、履修済の内容を包括的に復習し、多角的な視点を涵養することで実践的知識へと発展させることを目指す。
到達目標 (SBOs)	<ul style="list-style-type: none"> ・精神科疾患について理解することができる。 ・心療内科・小児科疾患について理解することができる。 ・消化器疾患について理解することができる。 ・呼吸器疾患について理解することができる。 ・循環器疾患について理解することができる。 ・内分泌・膠原病疾患について理解することができる。 ・腎・尿路疾患について理解することができる。 ・神経系疾患について理解することができる。 ・運動器疾患について理解することができる。 ・末梢神経疾患、神経痛、頭痛について理解することができる。 ・外科、麻酔科、婦人科、皮膚科、眼科疾患について理解することができる。 ・耳鼻科疾患、精神科・心療内科疾患について理解することができる。 ・老年期、小児科疾患について理解することができる。

【担当教員から】

教科書	東洋療法学校協会編/臨床医学各論第2版. 医歯薬出版
参考書	都度参考資料を配付する
成績評価基準	授業の理解度 基本的知識の習得 知識の応用力 以上を学期末試験にて評価を行う。
成績評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学業成績の評価は、試験の成績、実習の成果及び履修状況等を総合的に勘案して行う。但し、授業時間数における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。 2. 1 期試験 成績評価の基準は次のとおりとし、A、B、C を合格、D を不合格とする。 (1) A : 100～90点 (2) B : 89～70点 (3) C : 69～60点 (4) D : 60点未満 3. 2、3 期試験に代わって実施される、一、二次卒業試験の範囲の結果で評価する。
授業時間外必要な学修	予習課題および復習課題を出すことがあり、成績の評価の際に加点要素とする。
履修にあたっての留意点	

学期	回数	講義内容	備考	講義形態
1期	1	【精神科疾患】	神経症（神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害）、統合失調症、うつ病	講義
	2	【心療内科・小児科疾患】	心身症、神経性食欲不振症、過食症および小児科疾患	講義
	3	【老年期疾患】	老年期の身体・心理特性	講義
	4	消化器疾患の総括-1	口腔、食道疾患	講義
	5	消化器疾患の総括-2	胃・十二指腸、腸疾患	講義
	6	呼吸器疾患の総括-1	呼吸器の感染性疾患	講義
	7	呼吸器疾患の総括-2	閉塞性呼吸器疾患	講義
	8	循環器疾患の総括-1	心不全	講義
	9	循環器疾患の総括-2	心臓弁膜症、その他の心疾患	講義
	10	内分泌・膠原病疾患の総括-1	内分泌疾患	講義
	11	試験		試験
	12	試験の解説	試験内容のフィードバック	講義
2期	13	内分泌・膠原病疾患の総括-2	内分泌・膠原病疾患	講義
	14	腎・尿路疾患の総括	腎疾患	講義
	15	神経系疾患の総括-1	脳血管障害、感染性疾患	講義
	16	神経系疾患の総括-2	脳、脊髄疾患、基底各変性疾患	講義
	17	運動器疾患の総括-1	筋疾患の特徴	講義
	18	運動器疾患の総括-2	運動ニューロン、末梢神経疾患	講義
	19	末梢神経疾患、神経痛、頭痛	末梢神経疾患、神経痛および頭痛	講義
	20	外科総論の総括	外科総論	講義
	21	麻酔科の総括	麻酔科、ペインクリニック	講義
	22			講義
	23	婦人科疾患、皮膚科疾患、眼科疾患の総括	婦人科疾患、皮膚科疾患、眼科疾患	講義
	24			講義
3期	25	耳鼻科疾患、精神科・心療内科の総括	耳鼻科疾患、精神科、心療内科疾患	講義
	26			講義
	27	老年期、小児科疾患の総括	老年期疾患、小児科疾患	講義
	28			講義
	29	科目の包括的な復習と発展-1	鍼灸臨床の基礎 臨床医学一般	講義
	30	科目の包括的な復習と発展-2		講義
	31	科目の包括的な復習と発展-3		講義
	32	科目の包括的な復習と発展-4		講義
	33	科目の包括的な復習と発展-5		講義
	34	科目の包括的な復習と発展-6		講義
	35	科目の包括的な復習と発展-7		講義
	36	科目の包括的な復習と発展-8		講義

【授業進捗表】 臨床医学Ⅴ 2022年度 I 部鍼灸マッサージ科

学期	回数	講義内容	担当者確認	主任確認	
1期	1	【精神科疾患】			
	2	【心療内科・小児科疾患】			
	3	【老年期疾患】			
	4	消化器疾患の総括-1			
	5	消化器疾患の総括-2			
	6	呼吸器疾患の総括-1			
	7	呼吸器疾患の総括-2			
	8	循環器疾患の総括-1			
	9	循環器疾患の総括-2			
	10	内分泌・膠原病疾患の総括-1			
	11	試験			
	12	試験の解説			
2期	13	内分泌・膠原病疾患の総括-2			
	14	腎・尿路疾患の総括			
	15	神経系疾患の総括-1			
	16	神経系疾患の総括-2			
	17	運動器疾患の総括-1			
	18	運動器疾患の総括-2			
	19	末梢神経疾患、神経痛、頭痛			
	20	外科総論の総括			
	21	麻酔科の総括			
	22	婦人科疾患、皮膚科疾患、眼科疾患の総括			
	23				
	24				
3期	25	耳鼻科疾患、精神科・心療内科の総括			
	26				
	27	老年期、小児科疾患の総括			
	28				
	29	科目の包括的な復習と発展-1			
	30	科目の包括的な復習と発展-2			
	31	科目の包括的な復習と発展-3			
	32	科目の包括的な復習と発展-4			
	33	科目の包括的な復習と発展-5			
	34	科目の包括的な復習と発展-6			
	35	科目の包括的な復習と発展-7			
	36	科目の包括的な復習と発展-8			

【分野】 専門分野

【科目】 東洋医学概論-2

【基本情報】

配当年次	3 学年	担当教員	岡田 智和	
単位数	2 単位		実務経験	
開講学期	1 学期・2 学期	授業形態・回数	講義	24回

【授業情報】

授業概要	東洋医学的な治療方法や弁証論治を臨床に応用することができる授業をおこなう。東洋医学の診断法である四診を理解し、四診から得られる情報を基に証を決定する。さらに、証に応じた治療法、治療穴について学ぶ。また、様々な刺法の特徴についても学んでいく。
授業の一般目標 (GIO)	東洋医学の理念に基づいた病証概念、治療原則、弁証論治を理解し臨床に応用できる。要穴の種類と部位と解剖学的関連を学習する。 1 年次・2 年次に修得した単元を復習し、応用能力を身につける。
到達目標 (SBOs)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 是動病と所生病 十二経脈の病証について理解することができる。 ・ 奇経八脈病証について理解することができる。 ・ 経筋病 六経病 三陰三陽病(六病位)について理解することができる。 ・ 証のたて方、養生法、治療原則について理解することができる。 ・ 九鍼・刺法について理解することができる。 ・ 標本・主客、論治、禁忌・補瀉法について理解することができる。 ・ 補瀉法、難経六十九難、難経七十五難について理解することができる。 ・ 選穴の原則、湯液の特徴について理解することができる。 ・ 四総穴・八会穴・八脈交会穴・交会穴・下合穴について理解することができる。 ・ 陰陽論、五行説、気血津液、蔵象、病因、病証、四診法について理解することができる。

【担当教員から】

教科書	新版 東洋医学概論、新版 経絡経穴概論（東洋療法学校協会編）
参考書	経絡演習図（呉竹学園編） 東洋医学概論（東洋療法学校協会編）
成績評価基準	授業の理解度 基本的知識の習得 知識の応用力 以上を学期末試験にて評価を行う。
成績評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学業成績の評価は、試験の成績、実習の成果及び履修状況等を総合的に勘案して行う。但し、授業時間数における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。 2. 1 期試験 成績評価の基準は次のとおりとし、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。 (1) A : 100～90点 (2) B : 89～70点 (3) C : 69～60点 (4) D : 60点未満 3. 2 期試験に代わって実施される、一次卒業試験の範囲の結果で評価する。
授業時間外必要な学修	教科書・参考書を利用して予習・復習を行う。
履修にあたっての留意点	難解な漢字・語句がある場合は、漢字辞典・国語辞典などを用いて調べるとよい。スマホ・タブレットは指示に従って使用すること。

【授業計画】東洋医学概論-2 2022年度 I 部鍼灸マッサージ科

学期	回数	講義内容	備考	講義形態
1期	1	経絡弁証：是動病と所生病 十二経脈の病証①	是動病と所生病、正経の流注と弁証	講義
	2	経絡弁証：十二経脈の病証②	正経の流注と弁証	講義
	3	経絡弁証：十二経脈の病証③ 奇経八脈病証	奇経の弁証、経筋の概要	講義
	4	経絡弁証：経筋病 六経病 三陰三陽病(六病位)	六経病	講義
	5	証のたて方 治療論：養生法・治療原則	証のたて方、養生、治療原則	講義
	6	治療法 九鍼・刺法（九刺）	古代九鍼	講義
	7	刺法（十二刺・五刺・三刺）	刺法	講義
	8	標本・主客 論治(治則・八法) 禁忌・補瀉法(用鍼・治法)	標本・主客・論治、鍼灸の禁忌、灸の補瀉法	講義
	9	補瀉法(取穴の補瀉) 難経六十九難(臓)	難経六十九難	講義
	10	補瀉法(取穴の補瀉) 難経六十九難(腑)		講義
	11	試験		試験
	12	試験解説	試験内容のフィードバック	講義
2期	13	補瀉法(取穴の補瀉) 難経七十五難	難経七十五難	講義
	14	選穴の原則	選穴の原則	講義
	15	湯液の特徴	生薬、気味、八法、瞑眩	講義
	16	四総穴・八会穴・八脈交会穴・交会穴・下合穴の意義の復習	四総穴・八会穴・八脈交会穴・交会穴・下合穴	講義
	17	陰陽論の復習 五行説の復習	陰陽論五行説	講義
	18	気血津液の復習・奇穴の復習	気血津液、奇穴	講義
	19	蔵象の復習①・五要穴・五行穴・五俞穴	蔵象、五要穴・五行穴・五俞穴	講義
	20	蔵象の復習②	蔵象、臓腑・奇恒の腑	講義
	21	弁証の復習：八綱・気血津液・衛気営血・その他の弁証	八綱弁証、気血津液弁証、衛気営血弁証	講義
	22			
	23	病因の復習	病因、病証	講義
	24	病証と四診法の復習	病証、四診法（舌診・脈診・腹診）	講義
3期	25			
	26			
	27			
	28			
	29			
	30			
	31			
	32			
	33			
	34			
	35			
	36			

【授業進捗表】東洋医学概論-2 2022年度 I 部鍼灸マッサージ科

学期	回数	講義内容	担当者確認	主任確認
----	----	------	-------	------

1期	1	経絡弁証：是動病と所生病 十二経脈の病証①		
	2	経絡弁証：十二経脈の病証②		
	3	経絡弁証：十二経脈の病証③ 奇経八脈病証		
	4	経絡弁証：経筋病 六経病 三陰三陽病(六病位)		
	5	証のたて方 治療論：養生法・治療原則		
	6	治療法 九鍼・刺法（九刺）		
	7	刺法（十二刺・五刺・三刺）		
	8	標本・主客 論治(治則・八法) 禁忌・補瀉法(用鍼・治法)		
	9	補瀉法(取穴の補瀉) 難経六十九難(臟)		
	10	補瀉法(取穴の補瀉) 難経六十九難(腑)		
	11	試験		
	12	試験解説		
2期	13	補瀉法(取穴の補瀉) 難経七十五難		
	14	選穴の原則		
	15	湯液の特徴		
	16	四総穴・八会穴・八脈交会穴・交会穴・下合穴の意義の復習		
	17	陰陽論の復習 五行説の復習		
	18	気血津液の復習・奇穴の復習		
	19	蔵象の復習①・五要穴・五行穴・五俞穴		
	20	蔵象の復習②		
	21	弁証の復習：八綱・気血津液・衛気営血・その他の弁証		
	22	その他の弁証		
	23	病因の復習		
	24	病証と四診法の復習		
3期	25			
	26			
	27			
	28			
	29			
	30			
	31			
	32			
	33			
	34			
	35			
	36			

【科目】 経絡経穴概論-2

【基本情報】

配当年次	3 学年	担当教員	鈴木 得二郎	
単位数	1 単位		実務経験	
開講学期	1 学期	授業形態・回数	講義	12回

【授業情報】

授業概要	今までに学んだ「経絡経穴概論」をもとに、国家試験に出題される範囲を中心に、講義と問題演習を行い、合格する為の学力を身につける。
授業の一般目標 (GIO)	各経脈の取穴部位の確認とその解剖部位の関連性を復習し、総合的な理解と解釈を学習する。 ・十四経脈の取穴を学習する。 ・十四経脈の取穴部位を解剖学的に学習する。 ・要穴の理解と治療への応用を学習する。
到達目標 (SBOs)	・要穴、奇穴について理解することができる。 ・上肢陰経、陽経について理解することができる。 ・下肢陰経、陽経について理解することができる。 ・頭頸部・顔面部・胸腹部の経穴について理解することができる。 ・背腰部の経穴について理解することができる。 ・正経十二経脈・奇経八脈の流注について理解することができる。

【担当教員から】

教科書	新版東洋医学概論 新版経絡経穴概論
参考書	
成績評価基準	授業の理解度 基本的知識の習得 知識の応用力 以上を学期末試験にて評価を行う。
成績評価方法	学業成績の評価は、試験の成績、実習の成果及び履修状況等を総合的に勘案して行う。 但し、授業時間数における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。 成績評価の基準は次の通りとし、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。 (1) A : 100～90点 (2) B : 89～70点 (3) C : 69～60点 (4) D : 60点未満
授業時間外必要な学修	授業後の復習を行うこと。
履修にあたっての留意点	難解な漢字、語句がある場合は、漢字辞典・国語辞典などを用いて調べるとよい。 スマホ・タブレットは指示に従って使用すること。

【授業計画】経絡経穴概論-2 2022年度 I 部鍼灸マッサージ科

学期	回数	講義内容	備考	講義形態
----	----	------	----	------

1期	1	要穴 1	原穴・郄穴・絡穴・募穴・背部俞穴・下合穴	講義
	2	要穴 2	井穴・榮穴・俞穴・經穴・合穴	講義
	3	要穴 3・奇穴	四総穴・八会穴・八脈交会穴と奇穴	講義
	4	上肢陰經の經穴	上肢陰經の經穴と筋・神経・血管	講義
	5	上肢陽經の經穴	上肢陽經の經穴と筋・神経・血管	講義
	6	下肢陰經の經穴	下肢陰經の經穴と筋・神経・血管	講義
	7	下肢陽經の經穴	下肢陽經の經穴と筋・神経・血管	講義
	8	頭頸部・顔面部・胸腹部の經穴	主な頭頸部・顔面部・胸腹部の經穴、胸腹部の横並び	講義
	9	背腰部の經穴	背腰部の經穴の横並び、背腰部の筋・神経	講義
	10	正經十二經脈・奇經八脈の流注	正經十二經脈と奇經八脈の流注	講義
	11	試験		試験
	12	総復習・まとめ	試験内容のフィードバック	講義
2期	13			
	14			
	15			
	16			
	17			
	18			
	19			
	20			
	21			
	22			
	23			
	24			
3期	25			
	26			
	27			
	28			
	29			
	30			
	31			
	32			
	33			
	34			
	35			
	36			

【授業進度表】 経絡経穴概論-2 2022年度 I 部鍼灸マッサージ科

学期	回数	講義内容	担当者確認	主任確認
	1	要穴 1		
	2	要穴 2		

1期	3	要穴3・奇穴	
	4	上肢陰経の経穴	
	5	上肢陽経の経穴	
	6	下肢陰経の経穴	
	7	下肢陽経の経穴	
	8	頭頸部・顔面部・胸腹部の経穴	
	9	背腰部の経穴	
	10	正経十二経脈・奇経八脈の流注	
	11	試験	
	12	総復習・まとめ	
2期	13		
	14		
	15		
	16		
	17		
	18		
	19		
	20		
	21		
	22		
	23		
	24		
3期	25		
	26		
	27		
	28		
	29		
	30		
	31		
	32		
	33		
	34		
	35		
	36		

【分野】 専門分野

【科目】 東洋医学の応用－2

【基本情報】

配当年次	3 学年	担当教員	渡辺 亜矢	
単位数	3 単位		実務経験	
開講学期	1学期・2学期・3学期	授業形態・回数	講義	36回

【授業情報】

授業概要	1年次、2年次に学んだ解剖学、生理学、あはき理論、経絡経穴概論の知識を、臨床施術に 応用する力を身につける。また、患者に対する的確な説明ができる知識を習得する。
授業の一般目標 (GIO)	<ul style="list-style-type: none"> ・あはき治療について基本的知識を学習する。 ・あはき治療に関連する治効理論を学習する。 ・あはき治療に必要な、症候からの臨床応用への道筋を学習する。
到達目標 (SBOs)	<ul style="list-style-type: none"> ・あはき治効理論について説明することができる。 ・あはきの一般治効理論について説明することができる。 ・あん摩マッサージ指圧と東洋医学について説明することができる。 ・あはき治療におけるリスク管理について説明することができる。 ・経絡経穴概論の学習した内容を復習し理解を深めることができる。 ・あはき理論の学習した内容を復習し理解を深めることができる。

【担当教員から】

教科書	あん摩マッサージ指圧理論、はりきゅう理論：学校協会編、新版経絡経穴概論
参考書	鍼灸臨床最新科学(川喜田健司、矢野忠編)医歯薬出版、 図解 鍼灸療法技術ガイド(矢野忠編)文光堂
成績評価基準	授業の理解度 基本的知識の習得 知識の応用力 以上を学期末試験にて評価を行う。
成績評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学業成績の評価は、試験の成績、実習の成果及び履修状況等を総合的に勘案して行う。 但し、授業時間数における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は、 当該科目について評価を受けることができない。 2. 1期試験 成績評価の基準は次のとおりとし、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。 (1) A：100～90点 (2) B：89～70点 (3) C：69～60点 (4) D：60点未満 3. 2、3期試験に代わって実施される、一、二次卒業試験の範囲の結果で評価する。
授業時間外必要な学修	教科書、参考書を基に予習・復習を行うこと
履修にあたっての留意点	教科書とプリントを中心に授業を行います。授業の理解には出席が必要です。欠席を しないようにしてください。

【授業計画】 東洋医学の応用-2 2022年度 I 部鍼灸マッサージ科

学期	回数	講義内容	備考	講義形態
1期	1	あはき治効理論（ゲートコントロール説）	ゲートコントロール説	講義
	2	あはきの一般治効理論（自律神経の概要）	自律神経の概要	講義
	3	あはきの一般治効理論（鍼の血流に及ぼす影響）	軸索反射、自律神経反射による鍼灸の治効機序	講義
	4	あはきの一般治効理論（灸療法と炎症）	灸療法による炎症と治療的作用	講義
	5	あはきの一般治効理論 （鍼灸治療による生体防御機構に及ぼす影響）	灸療法による生体防御機構に及ぼす影響	講義
	6	あん摩マッサージ指圧と東洋医学 （古法あん摩・導引口訣鈔・按腹図解）	「按摩手引」「導引口訣鈔」 「按腹図解」	講義
	7	あはき治療におけるリスク管理の復習	感染症対策、適応と禁忌	講義
	8	あはき治効理論の復習（痛覚の伝導路）	鎮痛の機序	講義
	9	あはき治効理論の復習（鎮痛）	鍼灸の自律神経に及ぼす影響	講義
	10	あはき治効理論の復習（一般治効理論・関連学説）	鍼灸の生体防御機構、関連学説	講義
	11	試験		試験
	12	試験解説	試験内容のフィードバック	講義
2期	13	復習（経絡・経穴の基礎）	問題演習	講義
	14	復習（督脈・任脈）	問題演習	講義
	15	復習（手の太陰肺経、陽明大腸経）	問題演習	講義
	16	復習（足の陽明胃経、太陰脾経）	問題演習	講義
	17	復習（手の少陰心経、太陽小腸経）	問題演習	講義
	18	復習（足の太陽膀胱経、少陰腎経）	問題演習	講義
	19	復習（手の厥陰心包経、少陽三焦経）	問題演習	講義
	20	復習（足の少陽胆経、厥陰肝経）	問題演習	講義
	21	復習（奇形八脈・奇穴）	問題演習	講義
	22	復習（経絡・経穴の現代的研究）	問題演習	講義
	23	復習（総まとめ）	問題演習	講義
	24	復習（総まとめ）	問題演習	講義
3期	25	復習（あまし施術の基本）	問題演習	講義
	26	復習（あまし施術の応用）	問題演習	講義
	27	復習（はりきゅう治療の基本）	問題演習	講義
	28	復習（はりきゅう治療の応用）	問題演習	講義
	29	復習（関連学説）	問題演習	講義
	30	治療への応用（主観的情報・医療面接）	問題演習	講義
	31	治療への応用（客観的情報）	問題演習	講義
	32	治療への応用（病態生理・評価・リスク管理）	問題演習	講義
	33	治療への応用（治療プラン）	問題演習	講義
	34	治療への応用（治効理論・関連学説）	問題演習	講義
	35	復習（総まとめ）	問題演習	講義
	36	復習（総まとめ）	問題演習	講義

【授業進捗表】 東洋医学の応用-2 2022年度 I 部鍼灸マッサージ科

学期	回数	講義内容	担当者確認	主任確認	
1期	1	あはき治効理論（ゲートコントロール説）			
	2	あはきの一般治効理論（自律神経の概要）			
	3	あはきの一般治効理論（鍼の血流に及ぼす影響）			
	4	あはきの一般治効理論（灸療法と炎症）			
	5	あはきの一般治効理論 （鍼灸治療による生体防御機構に及ぼす影響）			
	6	あん摩マッサージ指圧と東洋医学 （古法あん摩・導引口訣鈔・按腹図解）			
	7	あはき治療におけるリスク管理の復習			
	8	あはき治効理論の復習（痛覚の伝導路）			
	9	あはき治効理論の復習（鎮痛）			
	10	あはき治効理論の復習（一般治効理論・関連学説）			
	11	試験			
	12	試験解説			
2期	13	復習（経絡・経穴の基礎）			
	14	復習（督脈・任脈）			
	15	復習（手の太陰肺経、陽明大腸経）			
	16	復習（足の陽明胃経、太陰脾経）			
	17	復習（手の少陰心経、太陽小腸経）			
	18	復習（足の太陽膀胱経、少陰腎経）			
	19	復習（手の厥陰心包経、少陽三焦経）			
	20	復習（足の少陽胆経、厥陰肝経）			
	21	復習（奇形八脈・奇穴）			
	22	復習（経絡・経穴の現代的研究）			
	23	復習（総まとめ）			
	24	復習（総まとめ）			
3期	25	復習（あまし施術の基本）			
	26	復習（あまし施術の応用）			
	27	復習（はりきゅう治療の基本）			
	28	復習（はりきゅう治療の応用）			
	29	復習（関連学説）			
	30	治療への応用（主観的情報・医療面接）			
	31	治療への応用（客観的情報）			
	32	治療への応用（病態生理・評価・リスク管理）			
	33	治療への応用（治療プラン）			
	34	治療への応用（治効理論・関連学説）			
	35	復習（総まとめ）			
	36	復習（総まとめ）			

【基本情報】

配当年次	3 学年	担当教員	町田しのぶ	
単位数	3 単位		実務経験	
開講学期	1 学期・2 学期・3 学期	授業形態・回数	講義	36回

【授業情報】

授業概要	鍼灸臨床において頻繁に遭遇する主要症候について、現代医学的に病態把握し、鍼灸適不適の鑑別が出来る知識を習得する。その上で、現代医学・東洋医学それぞれの考え方に基づく病態把握・治療方針・具体的な治療方法を習得する。今までに学んだ「東洋医学臨床論」をもとに、国家試験に出題される範囲を中心に、講義と問題演習を行い、合格する為の学力を身につける。
授業の一般目標 (GIO)	あはき臨床における主要症候に対して病態把握や適不適の判断ができる知識を学習する。 あはき臨床における現代医学・東洋医学それぞれの考えに基づく病態把握や治療方針や具体的な治療方法を学習する。
到達目標 (SBOs)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 血圧異常（高血圧症・低血圧症）について鑑別と治療法を理解することができる。 ・ 食欲不振について鑑別と治療法を理解することができる。 ・ 肥満について鑑別と治療法を理解することができる。 ・ 発熱、のぼせと冷えについて鑑別と治療法を理解することができる。 ・ 不眠、疲労と倦怠について鑑別と治療法を理解することができる。 ・ 発疹について鑑別と治療法を理解することができる。 ・ 小児の症状、老年医学について鑑別と治療法を理解することができる。 ・ 東洋医学臨床論の学習した内容を復習し、理解を深めることができる。

【担当教員から】

教科書	東洋医学臨床論 〈はりきゅう編〉（学校協会編） 東洋医学臨床論 〈あん摩マッサージ指圧編〉（学校協会編）
参考書	新版 東洋医学概論、新版 経絡経穴概論、臨床医学各論、臨床医学総論、リハビリテーション医学、はりきゅう理論、あん摩マッサージ指圧理論
成績評価基準	授業の理解度 基本的知識の習得 知識の応用力 以上を学期末試験にて評価を行う。
成績評価方法	1. 学業成績の評価は、試験の成績、実習の成果及び履修状況等を総合的に勘案して行う。 但し、授業時間数における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。 2. 1 期試験 成績評価の基準は次のとおりとし、A、B、C を合格、D を不合格とする。 (1) A : 100～90点 (2) B : 89～70点 (3) C : 69～60点 (4) D : 60点未満 3. 2、3 期試験に代わって実施される、一、二次卒業試験の範囲の結果で評価する。
授業時間外必要な学修	授業の復習を行う。
履修にあたっての留意点	スマホ・タブレットは指示に従って使用すること。

【授業計画】 東洋医学臨床論Ⅲ 2022年度 I 部鍼灸マッサージ科

学期	回数	講義内容	備考	講義形態
1期	1	血圧異常（高血圧症・低血圧症）	血圧異常	講義
	2	食欲不振	食欲不振	講義
	3	肥満	肥満	講義
	4	発熱	発熱	講義
	5	のぼせと冷え	のぼせと冷え	講義
	6	不眠	不眠	講義
	7	疲労と倦怠	疲労と倦怠	講義
	8	発疹	発疹	講義
	9	小児の症状	小児の症状	講義
	10	老年医学	老年医学	講義
	11	試験		試験
	12	試験解説	試験内容のフィードバック	講義
2期	13	頸肩腕痛の復習	問題演習	講義
	14	上肢痛の復習	問題演習	講義
	15	肩関節痛の復習	問題演習	講義
	16	腰下肢痛の復習	問題演習	講義
	17	膝関節痛の復習	問題演習	講義
	18	頭痛の復習	問題演習	講義
	19	顔面痛・歯痛の復習	問題演習	講義
	20	顔面麻痺の復習	問題演習	講義
	21	眼精疲労・鼻閉鼻汁・脱毛の復習	問題演習	講義
	22	めまい・耳鳴りと難聴の復習	問題演習	講義
	23	咳嗽・喘息の復習	問題演習	講義
	24	胸痛の復習	問題演習	講義
3期	25	腹痛・悪心嘔吐の復習	問題演習	講義
	26	便秘と下痢の復習	問題演習	講義
	27	月経異常の復習	問題演習	講義
	28	排尿障害・勃起障害の復習	問題演習	講義
	29	運動麻痺の復習	問題演習	講義
	30	スポーツ医学の復習	問題演習	講義
	31	血圧異常の復習	問題演習	講義
	32	食欲不振・肥満の復習	問題演習	講義
	33	疲労と倦怠・不眠の復習	問題演習	講義
	34	のぼせと冷え・発熱の復習	問題演習	講義

35	小児の疾患の復習	問題演習	講義
36	老年医学の復習	問題演習	講義

【授業進度表】 東洋医学臨床論Ⅲ 2022年度 I 部鍼灸マッサージ科				
学期	回数	講義内容	担当者確認	主任確認
1期	1	血圧異常（高血圧症・低血圧症）		
	2	食欲不振		
	3	肥満		
	4	発熱		
	5	のぼせと冷え		
	6	不眠		
	7	疲労と倦怠		
	8	発疹		
	9	小児の症状		
	10	老年医学		
	11	試験		
	12	試験解説		
2期	13	頸肩腕痛の復習		
	14	上肢痛の復習		
	15	肩関節痛の復習		
	16	腰下肢痛の復習		
	17	膝関節痛の復習		
	18	頭痛の復習		
	19	顔面痛・歯痛の復習		
	20	顔面麻痺の復習		
	21	眼精疲労・鼻閉鼻汁・脱毛の復習		
	22	めまい・耳鳴りと難聴の復習		
	23	咳嗽・喘息の復習		
	24	胸痛の復習		
3期	25	腹痛・悪心嘔吐の復習		
	26	便秘と下痢の復習		
	27	月経異常の復習		
	28	排尿障害・勃起障害の復習		
	29	運動麻痺の復習		
	30	スポーツ医学の復習		
	31	血圧異常の復習		
	32	食欲不振・肥満の復習		
	33	疲労と倦怠・不眠の復習		
	34	のぼせと冷え・発熱の復習		
	35	小児の疾患の復習		
	36	老年医学の復習		

【科目】 社会あはき学

【基本情報】

配当年次	3 学年	担当教員	和田 真紀子	
単位数	3 単位		実務経験	
開講学期	1 学期・2 学期	授業形態・回数	講義	24回

【授業情報】

授業概要	医療に従事する職種に関する基本的な規定、また、鍼灸師が免許を有することで担う義務と責任を学習する。医療を担う一員として、人類にとって医療とは何か、そして医の倫理とは何か、その原点を常に広い視野に立って深く洞察できる人間性・人格を養う。人口問題から疫学、感染症、生活習慣病、さらには環境問題等の現状と問題点を解説するとともに、健康保持のための個人レベル、社会レベルでの方策について学ぶ。今までに学んだ「臨床医学総論」をもとに、国家試験に出題される範囲を中心に、講義と問題演習を行う。
授業の一般目標 (GIO)	<ul style="list-style-type: none"> ・ あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師として、社会の中で活動していく上で必要な法律上の規定を学習する。 ・ 疫学・統計を学ぶことで、日本の保健衛生の現状を知る。 ・ 国家試験に合格するために、関係法規、衛生学、臨床医学総論について、理解を深め、国家試験レベルの問題に正しく解答できる力を身につける。
到達目標 (SBOs)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 法の意義、法の体系、免許・試験について理解することができる。 ・ 業務、広告・罰則について理解することができる。 ・ 医療法・医師法、医事・福祉法規について理解することができる。 ・ 疫学、統計について理解することができる。 ・ 現代医学と医療について理解することができる。 ・ 医療従事者の倫理について理解することができる。 ・ 臨床医学総論の学習した内容を復習し、理解を深めることができる。 ・ 衛生学、関係法規、医療概論の学習した内容を復習し、理解を深めることができる。

【担当教員から】

教科書	「関係法規」(学校協会編)「衛生学・公衆衛生学」(学校協会編) 「臨床医学総論」(学校協会編)
参考書	
成績評価基準	授業の理解度 基本的知識の習得 知識の応用力 以上を学期末試験にて評価を行う。
成績評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学業成績の評価は、試験の成績、実習の成果及び履修状況等を総合的に勘案して行う。但し、授業時間数における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。 2. 1 期試験 成績評価の基準は次のとおりとし、A、B、C を合格、D を不合格とする。 (1) A : 100～90点 (2) B : 89～70点 (3) C : 69～60点 (4) D : 60点未満 3. 2 期試験に代わって実施される、一次卒業試験の範囲の結果で評価する。
授業時間外必要な学修	教科書、参考書を基に予習・復習を行うこと
履修にあたっての留意点	

学期	回数	講義内容	備考	講義形態
1期	1	法の意義、法の体系 免許・試験について	法の種類、免許証書換・再交付試験 (受験手続き、試験の施行)	講義
	2	業務について	業務の独占と範囲、施術に関する注意、開設届、 構造設備基準、知事の監督、出張・滞在業務	講義
	3			
	4	広告・罰則について	施術所の名称制限、広告の制限、 罰金(施術者、施術所)、両罰規定	講義
	5	医療法・医師法、その他の医事・福祉法規	病院、診療所、助産所の定義、医師の仕事、 薬事関係、法規、生活保護法、児童福祉法、 障害者自立支援法、老人福祉法、健康保険法、 介護保険法等	講義
	6	疫学	疫学調査の研究	講義
	7	統計	保健統計の意義	講義
	8			
	9	現代医学と医療	現代医学の課題・医療制度(近世医学、 終末期医療、先進医療、臓器移植、国民医療費)	講義
	10	医療従事者の倫理	医療倫理(ヒポクラテスの誓い、ジュネーブ宣言、 ヘルシンキ宣言、患者の権利宣言、 インフォームドコンセント、アドヒアランス、 バイオエシックス、Q. O. L.、S. O. L.)	講義
	11	試験		試験
	12	試験解説	試験内容のフィードバック	講義
2期	13	健康 (健康管理・衛生行政)	疾病予防(一次～三次予防)、 わが国の医療保険制度、保険者と被保険者	講義
	14	ライフスタイルと健康、日常生活環境	栄養素の過剰・欠乏疾患、細菌性・毒素性食中毒、 物理学的環境要因、化学的環境要因	講義
	15	環境問題、公害、地球規模の環境問題	七大公害、内分泌攪乱化学物質、 オゾン層破壊、地球温暖化、酸性雨の原因物質	講義
	16	産業衛生	産業衛生関係法規、業務上疾病	講義
	17	精神保健	精神障害者に対する入院形式、 入院・外来患者で多い疾患	講義
	18	母子保健	母子保健における用語の定義 (リプロダクティブヘルス含む)、死亡統計	講義
	19	感染症	病原微生物と疾患、感染経路、人畜共通感染症、 感染症法	講義
	20	消毒	物理的消毒法、化学的消毒法	講義
	21	臨床医学総論の復習 (診察の方法・バイタルサイン)	問題演習	講義
	22	臨床医学総論の復習(神経系の診察)	問題演習	講義
	23	臨床医学総論の復習(神経系の診察)	問題演習	講義
	24	臨床医学総論の復習(運動機能検査)	問題演習	講義
3期	25			
	26			
	27			
	28			
	29			
	30			
	31			
	32			
	33			
	34			
	35			
	36			

【授業進度表】 社会あはき学 2022年度 I 部鍼灸マッサージ科

学期	回数	講義内容	担当者確認	主任確認	
1期	1	法の意義、法の体系 免許・試験について			
	2	業務について			
	3				
	4	広告・罰則について			
	5	医療法・医師法、その他の医事・福祉法規			
	6	疫学			
	7	統計			
	8				
	9	現代医学と医療			
	10	医療従事者の倫理			
	11	試験			
	12	試験解説			
2期	13	健康（健康管理・衛生行政）			
	14	ライフスタイルと健康、日常生活環境			
	15	環境問題、公害、地球規模の環境問題			
	16	産業衛生			
	17	精神保健			
	18	母子保健			
	19	感染症			
	20	消毒			
	21	臨床医学総論の復習 （診察の方法・バイタルサイン）			
	22	臨床医学総論の復習（神経系の診察）			
	23	臨床医学総論の復習（神経系の診察）			
	24	臨床医学総論の復習（運動機能検査）			
3期	25				
	26				
	27				
	28				
	29				
	30				
	31				
	32				
	33				
	34				
	35				
	36				

【分野】 専門分野 実習

【科目】 あん摩マッサージ指圧臨床実技

【基本情報】

配当年次	3 学年	担当教員	上利文子 / 渡辺佳子・大饗将司	
単位数	2 単位		実務経験	5年以上
開講学期	前期・後期	授業形態・回数	講義	36回

【授業情報】

授業概要	1・2年次の按摩・指圧・マッサージの基本手技の確認・統合し、臨床現場に即したあん摩マッサージ指圧治療の組み立てを習得することを目的とする。また応用手技としてオイルマッサージの各手技を習得する。 治療院での施術経験を活かし、按摩・指圧・マッサージの施術手法について、より実践的な授業を行う。
授業の一般目標 (GIO)	応用手技を有効かつ安全に行う動作を身につける。 一定時間内に施術出来るように練習し、相手の状態に適した手技、刺激量を身につける。
到達目標 (SBOs)	<ul style="list-style-type: none"> 決められた時間内に全身疲労に対する病態把握、適不適の判別、あまし治療を行うことができる。 決められた時間内に頸肩腕痛・腰下肢痛・肩関節痛・膝関節痛に対する病態把握、適不適の判別、あまし治療を行うことができる。 あん摩の基本手技を的確に行い運動器疾患の治療を組み立て、実施することができる。 マッサージの基本手技を的確に行い運動器疾患の治療を組み立て、実施することができる。 指圧の基本手技を的確に行い運動器疾患の治療を組み立て、実施することができる。 指圧を用いた治療の適不適の判別と治療の組み立てを行い実施することができる。 あん摩を用いた治療の適不適の判別と治療の組み立てを行い実施することができる。 マッサージを用いた治療の適不適の判別と治療の組み立てを行い実施することができる。

【担当教員から】

教科書	『按摩・マッサージ・指圧 実技編』 学校法人 呉竹学園編
参考書	
成績評価基準	授業の理解度 基本的技術の習得 技術の応用力 以上を学期末試験にて評価を行う。
成績評価方法	1 成績の評価は、試験の成績、実習の成果及び履修状況等を総合的に勘案して行う。 但し、授業時間数における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。 2 成績評価の基準は次のとおりとし、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。 (1) A : 100～90点 (2) B : 89～70点 (3) C : 69～60点 (4) D : 60点未満
授業時間外必要な学修	教科書を基に予習・復習を行うこと
履修にあたっての留意点	繰り返し実施することで技術向上するため、時間を空けず復習することを勧めます。

【授業計画】 あん摩マッサージ指圧臨床実技 2022年度 I 部鍼灸マッサージ科

学期	回数	講義内容	備考	講義形態
	1	全身疲労に対する施術	決められた時間内に病態把握、	実技

前期	2	全身疲労に対する施術	適不適の判別	実技
	3	頸肩腕痛に対する施術	頸肩腕痛に対する病態把握、 適不適の判別、あまし治療	実技
	4	頸肩腕痛に対する施術		実技
	5	腰下肢痛に対する施術	腰下肢痛に対する病態把握、 適不適の判別、あまし治療	実技
	6	腰下肢痛に対する施術		実技
	7	肩関節痛に対する施術	肩関節痛に対する病態把握、 適不適の判別、あまし治療	実技
	8	肩関節痛に対する施術		実技
	9	膝関節痛に対する施術	膝関節痛に対する病態把握、 適不適の判別、あまし治療	実技
	10	膝関節痛に対する施術		実技
	11	按摩の基本手技の復習	按摩の基本手技、運動器疾患の治療	実技
	12	マッサージの基本手技の復習	マッサージの基本手技、運動器疾患の 治療	実技
	13	指圧の基本手技の復習	指圧の基本手技、運動器疾患の治療	実技
	14	まとめと復習	臨床実技・基礎実技・触診全体の振り返り	実技
	15	試験	臨床実技・基礎実技・触診の評価	実技
	16	まとめと復習	試験後のフィードバック	実技
	17	臨床実技	臨床手技の組み立て	実技
	18	臨床実技		実技
後期	19	応用実技	マッサージを用いた治療の適不適の判別、 治療の組み立てと実施	実技
	20	応用実技		実技
	21	応用実技		実技
	22	応用実技		実技
	23	応用実技		実技
	24	応用実技		実技
	25	応用実技 あん摩・指圧(肩上部・胸部・上肢)	指圧とあん摩を用いた治療の適不適 の判別、治療の組み立てと実施	実技
	26	応用実技 あん摩・指圧(腰殿部)		実技
	27	応用実技 あん摩・指圧(大腿・下腿部・足部)		実技
	28	応用実技 あん摩・指圧(肩上部・胸部・上肢)		実技
	29	応用実技 あん摩・指圧(腹部・鼠径部)		実技
	30	応用実技 あん摩・指圧(大腿・下腿部・足部)		実技
	31	応用実技 あん摩・指圧(肩上部・胸部・上肢)		実技
	32	応用実技 あん摩・指圧(腰殿部)		実技
	33	応用実技 あん摩・指圧(大腿・下腿部・足部)		実技
	34	応用実技 運動操作と押圧操作の併用(上半身)		実技
	35	応用実技 運動操作と押圧操作の併用(下半身)		実技
	36	応用実技 総合演習		実技

【授業進捗表】 あん摩マッサージ指圧臨床実技 2022年度 I 部鍼灸マッサージ科					
学期	回数	講義内容	担当者確認	主任確認	
	1	全身疲労に対する施術			
	2	全身疲労に対する施術			

前期	3	頸肩腕痛に対する施術	
	4	頸肩腕痛に対する施術	
	5	腰下肢痛に対する施術	
	6	腰下肢痛に対する施術	
	7	肩関節痛に対する施術	
	8	肩関節痛に対する施術	
	9	膝関節痛に対する施術	
	10	膝関節痛に対する施術	
	11	按摩の基本手技の復習	
	12	マッサージの基本手技の復習	
	13	指圧の基本手技の復習	
	14	まとめと復習	
	15	試験	
	16	まとめと復習	
	17	臨床実技	
	18	臨床実技	
後期	19	応用実技	
	20	応用実技	
	21	応用実技	
	22	応用実技	
	23	応用実技	
	24	応用実技	
	25	応用実技 あん摩・指圧(肩上部・胸部・上肢)	
	26	応用実技 あん摩・指圧(腰殿部)	
	27	応用実技 あん摩・指圧(大腿・下腿部・足部)	
	28	応用実技 あん摩・指圧(肩上部・胸部・上肢)	
	29	応用実技 あん摩・指圧(腹部・鼠径部)	
	30	応用実技 あん摩・指圧(大腿・下腿部・足部)	
	31	応用実技 あん摩・指圧(肩上部・胸部・上肢)	
	32	応用実技 あん摩・指圧(腰殿部)	
	33	応用実技 あん摩・指圧(大腿・下腿部・足部)	
	34	応用実技 運動操作と押圧操作の併用(上半身)	
	35	応用実技 運動操作と押圧操作の併用(下半身)	
	36	応用実技 総合演習	

【分野】 専門分野 はりきゅう実技

【科目】 はりきゅう応用実技 I

【基本情報】

配当年次	3 学年	担当教員	齊藤 隆夫	
単位数	2 単位		実務経験	5年以上
開講学期	前・後期	授業形態・回数	実技	36回

【授業情報】

授業概要	2年の臨床実技で行われた臨床で良く遭遇する4疾患に対する治療を深めるために、代表的な筋を対象にパルス治療器を用いて、正確にアプローチできるよう練習を行う。さらに応用実技としてスポーツ鍼灸、特殊鍼法を理解し実施できる能力を習得する。治療院での施術経験を活かし、はりきゅうの施術手法について、より実践的な授業を行う。
授業の一般目標 (GIO)	<ul style="list-style-type: none"> ・健康医学、産業医学についての説明と鍼灸治療を学習する。 ・整形外科的な代表4疾患に対する治療を学習する。 ・代表的な筋を対象にパルス通電療法を学習する。 ・スポーツ傷害の対処法、鍼灸治療を学習する。 ・特殊鍼法を学習する
授業の到達目標 (SBOs)	<ul style="list-style-type: none"> ・健康医学、産業医学について説明および鍼灸治療を行うことができる。 ・代表的な筋に対して、正確な刺鍼を行うことができる。 ・鍼通電療法を正確に行うことができる。 ・スポーツ傷害への対象法として、RICE処置を理解することができる。 ・各スポーツ傷害について説明および鍼灸治療を行うことができる。 ・特殊な鍼灸治療（灸頭鍼、小児鍼など）について説明および実施を行うことができる。

【担当教員から】

教科書	
参考書	
成績評価基準	授業の理解度 基本的技術の習得 技術の応用力 以上を学期末試験にて評価を行う。
成績評価方法	<p>1 成績の評価は、試験の成績、実習の成果及び履修状況等を総合的に勘案して行う。但し、授業時間数における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。</p> <p>2 成績評価の基準は次のとおりとし、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。 (1) A : 100～90点 (2) B : 89～70点 (3) C : 69～60点 (4) D : 60点未満</p>
授業時間外必要な学修	
履修にあたっての留意点	必要に応じ実技を行うに当たり支障が生じないように、短パンなどを準備しておく

【授業計画】 はりきゅう応用実技 I 2022年度 I 部鍼灸マッサージ科

学期	回数	講義内容	備考	講義形態
	1	1) 分野別鍼灸療法 (1) 健康医学分野	健康医学の概要 健康管理・養生法	実習

前期	2	1) 分野別鍼灸療法 (1) 健康医学分野	健康に対する鍼灸、健康維持・増進法	実習
	3	1) 分野別鍼灸療法 (2) 産業医学分野	労働災害（腰痛、頸肩腕痛など）	実習
	4	2) 併用する理学療法分野 (1) 電気療法	下肢の筋に対するパルス治療 前脛骨筋、腓骨筋、長趾伸筋	実習
	5	2) 併用する理学療法分野 (1) 電気療法	半腱様筋、腓腹筋、長趾屈筋	実習
	6	2) 併用する理学療法分野 (1) 電気療法	大腿四頭筋、縫工筋	実習
	7	2) 併用する理学療法分野 (1) 電気療法	腕橈骨筋、総指伸筋、尺側手根伸筋	実習
	8	2) 併用する理学療法分野 (1) 電気療法	長母指伸筋、長母指外転筋、 円回内筋	実習
	9	2) 併用する理学療法分野 (1) 電気療法	上腕二頭筋、上腕三頭筋	実習
	10	2) 併用する理学療法分野 (1) 電気療法	腰方形筋、脊柱起立筋	実習
	11	2) 併用する理学療法分野 (1) 電気療法	梨状筋、殿筋	実習
	12	2) 併用する理学療法分野 (1) 電気療法	腰方形筋、脊柱起立筋	実習
	13	2) 併用する理学療法分野 (1) 電気療法	頭板状筋、頭半棘筋	実習
	14	2) 併用する理学療法分野 (1) 電気療法	僧帽筋、菱形筋	実習
	15	2) 併用する理学療法分野 (1) 電気療法	棘下筋、棘上筋、小円筋	実習
	16	2) 併用する理学療法分野 (1) 電気療法		実習
	17	前期試験：実技総合試験①		試験
	18	前期試験：実技総合試験①		試験
後期	19	1) 分野別鍼灸療法 (4) スポーツ医学分野	スポーツ傷害に対するRICE処置	実習
	20	1) 分野別鍼灸療法 (4) スポーツ医学分野	スポーツ傷害における腰痛	実習
	21	1) 分野別鍼灸療法 (4) スポーツ医学分野	スポーツ傷害における肩関節痛	実習
	22	1) 分野別鍼灸療法 (4) スポーツ医学分野	スポーツ傷害における肘関節痛	実習
	23	1) 分野別鍼灸療法 (4) スポーツ医学分野	スポーツ傷害における膝関節痛	実習
	24	1) 分野別鍼灸療法 (4) スポーツ医学分野	スポーツ傷害における足関節痛	実習
	25	1) 分野別鍼灸療法 (4) スポーツ医学分野	スポーツ傷害における下肢痛	実習
	26	1) 分野別鍼灸療法 (4) スポーツ医学分野	肉離れ、コンパートメント症候群	実習
	27	1) 分野別鍼灸療法 (4) スポーツ医学分野	ストレッチ、操体法	実習
	28	3) 鍼灸各種治療体系概要 (1)	灸頭鍼法 1	実習
	29	3) 鍼灸各種治療体系概要 (2)	隔物灸法	実習
	30	3) 鍼灸各種治療体系概要 (3)	良道絡治療	実習
	31	3) 鍼灸各種治療体系概要 (4)	耳鍼法・円皮鍼耳鍼法	実習
	32	3) 鍼灸各種治療体系概要 (5)	皮内鍼法	実習
	33	3) 鍼灸各種治療体系概要 (6)	小児鍼法	実習
	34	3) 鍼灸各種治療体系概要 (7)	吸角療法	実習
	35	まとめ		実習
	36	まとめ		実習

【授業進度表】 はりきゅう応用実技Ⅰ 2022年度 I 部鍼灸マッサージ科				
学期	回数	講義内容	担当者確認	主任確認
	1	1) 分野別鍼灸療法 (1) 健康医学分野		
	2	1) 分野別鍼灸療法 (1) 健康医学分野		

前期	3	1) 分野別鍼灸療法 (2) 産業医学分野	
	4	2) 併用する理学療法分野 (1) 電気療法	
	5	2) 併用する理学療法分野 (1) 電気療法	
	6	2) 併用する理学療法分野 (1) 電気療法	
	7	2) 併用する理学療法分野 (1) 電気療法	
	8	2) 併用する理学療法分野 (1) 電気療法	
	9	2) 併用する理学療法分野 (1) 電気療法	
	10	2) 併用する理学療法分野 (1) 電気療法	
	11	2) 併用する理学療法分野 (1) 電気療法	
	12	2) 併用する理学療法分野 (1) 電気療法	
	13	2) 併用する理学療法分野 (1) 電気療法	
	14	2) 併用する理学療法分野 (1) 電気療法	
	15	2) 併用する理学療法分野 (1) 電気療法	
	16	2) 併用する理学療法分野 (1) 電気療法	
	17	前期試験：実技総合試験①	
	18	前期試験：実技総合試験①	
後期	19	1) 分野別鍼灸療法 (4) スポーツ医学分野	
	20	1) 分野別鍼灸療法 (4) スポーツ医学分野	
	21	1) 分野別鍼灸療法 (4) スポーツ医学分野	
	22	1) 分野別鍼灸療法 (4) スポーツ医学分野	
	23	1) 分野別鍼灸療法 (4) スポーツ医学分野	
	24	1) 分野別鍼灸療法 (4) スポーツ医学分野	
	25	1) 分野別鍼灸療法 (4) スポーツ医学分野	
	26	1) 分野別鍼灸療法 (4) スポーツ医学分野	
	27	1) 分野別鍼灸療法 (4) スポーツ医学分野	
	28	3) 鍼灸各種治療体系概要 (1)	
	29	3) 鍼灸各種治療体系概要 (2)	
	30	3) 鍼灸各種治療体系概要 (3)	
	31	3) 鍼灸各種治療体系概要 (4)	
	32	3) 鍼灸各種治療体系概要 (5)	
	33	3) 鍼灸各種治療体系概要 (6)	
	34	3) 鍼灸各種治療体系概要 (7)	
	35	まとめ	
	36	まとめ	

【分野】 専門分野 はりきゅう実技

【科目】 はりきゅう応用実技Ⅱ

【基本情報】

配当年次	3 学年	担当教員	畠山博式・藤田洋輔/高野耕造	
単位数	2 単位		実務経験	5年以上
開講学期	前・後期	授業形態・回数	実技	36回

【授業情報】

授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・2年の臨床実技でも重視し行われた、臨床上遭遇する頻度の高い整形外科症状に対する鍼灸治療を身につける。 ・治療各論として、諸症状における東西両医学を用いた鍼灸臨床の実際を身につける。 ・実践的に学生同士で相手の症状に対して、一連の鍼灸施術を身につける。 ・治療院での施術経験を活かし、はりきゅうの施術手法について、より実践的な授業を行う。
授業の一般目標 (GIO)	<ul style="list-style-type: none"> ・整形外科的に代表的な4大症状に対する鍼灸治療を学習する。 ・一般臨床で遭遇する可能性のある諸症状について鍼灸治療を学習する。 ・弁証の復習と治法に応じた治療、舌診・腹診・脈診と奇経八脈治療を学習する。
到達目標 (SBOs)	<ul style="list-style-type: none"> ・遭遇する頻度の高い整形外科症状に対して、適切な医療面接、身体診察、病態把握、鍼灸治療の立案と実践を行うことができる。 ・四診法（舌診、脈診、腹診、背候診）ができる ・証の決定、治法に応じた治療方針、選穴ができる。 ・灸頭鍼、隔物灸、各種吸角療法を正しく行うことができる。 ・治法に応じた鍼通電療法が正確に行う事ができる。 ・奇経治療を用いた婦人科鍼灸治療ができる。

【担当教員から】

教科書	
参考書	
成績評価基準	授業の理解度 基本的技術の習得 技術の応用力 以上を学期末試験にて評価を行う。
成績評価方法	1 成績の評価は、試験の成績、実習の成果及び履修状況等を総合的に勘案して行う。但し、授業時間数における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。 2 成績評価の基準は次のとおりとし、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。 (1) A：100～90点 (2) B：89～70点 (3) C：69～60点 (4) D：60点未満
授業時間外必要な学修	
履修にあたっての留意点	必要に応じ実技を行うに当たり支障が生じないように、短パンなどを準備しておく

【授業計画】 はりきゅう応用実技Ⅱ 2022年度 I 部 鍼灸マッサージ科

学期	回数	講義内容	備考	講義形態
----	----	------	----	------

前期	1	1) 現代医学的な鍼灸療法 (1) 代表 4 疾患の治療 復習 1. 腰下肢痛 2. 膝関節痛	頸肩背部痛・腰下肢痛	実技
	2	1) 現代医学的な鍼灸療法 (1) 代表 4 疾患の治療 復習 3. 頸肩腕痛 4. 肩関節痛	肩関節痛・膝関節痛	実技
	3	1) 現代医学的な鍼灸療法 (1) 代表 4 疾患の治療 復習 1. 腰下肢痛 2. 膝関節痛 ロールプレイ	ロールプレイ、医療面接、身体診察、病態把握・鍼灸治療計画立案	実技
	4	1) 現代医学的な鍼灸療法 (1) 代表 4 疾患の治療 復習 3. 頸肩腕痛 4. 肩関節痛 ロールプレイ		実技
	5	1) 現代医学的な鍼灸治療 (2) 代表 4 疾患の治療 各論 2. 腰下肢痛 ①腰痛	腰痛	実技
	6	1) 現代医学的な鍼灸治療 (2) 代表 4 疾患の治療 各論 2. 腰下肢痛②下肢神経障害	腰部神経根症	実技
	7	1) 現代医学的な鍼灸治療 (2) 代表 4 疾患の治療 各論 4. 膝関節痛 ①変形性膝関節症等	膝痛の病態、鍼灸治療、生活指導	実技
	8	1) 現代医学的な鍼灸治療 (2) 代表 4 疾患の治療 各論 1. 頸肩腕痛 ①肩こり	肩こり	実技
	9	1) 現代医学的な鍼灸治療 (2) 代表 4 疾患の治療 各論 1. 頸肩腕痛②頸椎性神経根症 ③胸郭出口症候群	頸椎性神経根症・胸郭出口症候群	実技
	10	1) 現代医学的な鍼灸治療 (2) 代表 4 疾患の治療 各論 1. 頸肩腕痛④上肢の絞扼性末梢神経障害	上肢の絞扼性末梢神経障害	実技
	11	1) 現代医学的な鍼灸治療 (2) 代表 4 疾患の治療 各論 1. 頸肩腕痛⑤上肢症状に対する応用臨床	上肢症状に対する応用臨床	実技
	12	1) 現代医学的な鍼灸治療 (2) 代表 4 疾患の治療 各論 3. 肩関節痛 ①肩関節周囲炎等	肩痛、鍼灸治療、生活指導	実技
	13			実技
	14	1) 現代医学的な鍼灸療法 (1) 代表 4 症状の治療および施灸の復習	(1) 代表 4 症状の医療面接・身体診察 (徒手検査法) 鍼灸治療	実技
	15			実技
	16	前期試験：実技総合試験②		試験
	17	前期試験：実技総合試験②		試験
	18	まとめ		実技
後期	19	傾聴と自律神経調整法・リラクゼーション法の学習	傾聴と自律神経調整法	実技
	20	舌診の基礎知識を学習する	舌診断	実技
	21	舌診に基づく治療を学習する	舌診断による治療	実技
	22	脈状診の学習	脈状診	実技
	23	脈状診に基づく治療の学習	脈状診による治療	実技
	24	腹診を学習する	腹診断	実技
	25	腹診に基づく治療を学習する	腹診断による治療	実技
	26	四診合一に基づく治療の学習	四診合一診断と治療	実技
	27	循行経絡・経筋治療	循行経絡と経筋治療	実技
	28	太陰サイクル治療（肺-大腸-胃-脾の循環を 活性化）を履修	同名サイクル治療	実技
	29	少陰サイクル治療（心-小腸-膀胱-腎の循環を 活性化）を履修	同名サイクル治療	実技
	30	厥陰サイクル治療（心包-三焦-胆-肝の循環を 活性化）を履修	同名サイクル治療	実技
	31	吸角法を学習する	吸角の操作	実技
	32	各種吸角法を学習する	青龍吸角法	実技
	33	温灸法を学習する	温灸法	実技
	34	灸頭鍼法を学習する	灸頭鍼	実技
	35	鍼通電法を学習する	鍼通電	実技
	36	鍼通電法を学習する	鍼通電	実技

学期	回数	講義内容	担当者確認	主任確認	
前期	1	1) 現代医学的な鍼灸療法 (1) 代表 4 疾患の治療 復習 1. 腰下肢痛 2. 膝関節痛			
	2	1) 現代医学的な鍼灸療法 (1) 代表 4 疾患の治療 復習 3. 頸肩腕痛 4. 肩関節痛			
	3	1) 現代医学的な鍼灸療法 (1) 代表 4 疾患の治療 復習 1. 腰下肢痛 2. 膝関節痛 ロールプレイ			
	4	1) 現代医学的な鍼灸療法 (1) 代表 4 疾患の治療 復習 3. 頸肩腕痛 4. 肩関節痛 ロールプレイ			
	5	1) 現代医学的な鍼灸治療 (2) 代表 4 疾患の治療 各論 2. 腰下肢痛 ①腰痛			
	6	1) 現代医学的な鍼灸治療 (2) 代表 4 疾患の治療 各論 2. 腰下肢痛②下肢神経障害			
	7	1) 現代医学的な鍼灸治療 (2) 代表 4 疾患の治療 各論 4. 膝関節痛 ①変形性膝関節症等			
	8	1) 現代医学的な鍼灸治療 (2) 代表 4 疾患の治療 各論 1. 頸肩腕痛 ①肩こり			
	9	1) 現代医学的な鍼灸治療 (2) 代表 4 疾患の治療 各論 1. 頸肩腕痛②頸椎性神経根症			
	10	1) 現代医学的な鍼灸治療 (2) 代表 4 疾患の治療 各論 1. 頸肩腕痛④上肢の絞扼性末梢神経障害			
	11	1) 現代医学的な鍼灸治療 (2) 代表 4 疾患の治療 各論 1. 頸肩腕痛⑤上肢症状に対する応用臨床			
	12	1) 現代医学的な鍼灸治療 (2) 代表 4 疾患の治療 各論 3. 肩関節痛 ①肩関節周囲炎等			
	13				
	14	1) 現代医学的な鍼灸療法 (1) 代表 4 症状の治療および施灸の復習			
	15				
	16	前期試験：実技総合試験②			
	17	前期試験：実技総合試験②			
	18	まとめ			
後期	19	傾聴と自律神経調整法・リラクゼーション法の学習			
	20	舌診の基礎知識を学習する			
	21	舌診に基づく治療を学習する			
	22	脈状診の学習			
	23	脈状診に基づく治療の学習			
	24	腹診を学習する			
	25	腹診に基づく治療を学習する			
	26	四診合一に基づく治療の学習			
	27	循行経絡・経筋治療			
	28	太陰サイクル治療（肺-大腸-胃-脾の循環を 活性化）を履修			
	29	少陰サイクル治療（心-小腸-膀胱-腎の循環を 活性化）を履修			
	30	厥陰サイクル治療（心包-三焦-胆-肝の循環を 活性化）を履修			
	31	吸角法を学習する			
	32	各種吸角法を学習する			
	33	温灸法を学習する			
	34	灸頭鍼法を学習する			
	35	鍼通電法を学習する			
	36	鍼通電法を学習する			

【科目】 はりきゅう応用実技Ⅱ

【基本情報】

配当年次	3 学年	担当教員	藤田洋輔/高野耕造	
単位数	2 単位		実務経験	
開講学期	前・後期	授業形態・回数	実技	36回

【授業情報】

授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・2年の臨床実技でも重視し行われた、臨床上遭遇する頻度の高い整形外科症状に対する鍼灸治療を身につける。 ・治療各論として、諸症状における東西両医学を用いた鍼灸臨床の実際を身につける。 ・実践的に学生同士で相手の症状に対して、一連の鍼灸施術を身につける。
授業の一般目標 (GIO)	<ul style="list-style-type: none"> ・整形外科的に代表的な4大症状に対する鍼灸治療を学習する。 ・一般臨床で遭遇する可能性のある諸症状について鍼灸治療を学習する。 ・弁証の復習と治法に応じた治療、舌診・腹診・脈診と奇経八脈治療を学習する。
到達目標 (SBOs)	<ul style="list-style-type: none"> ・遭遇する頻度の高い整形外科症状に対して、適切な医療面接、身体診察、病態把握、鍼灸治療の立案と実践を行うことができる。 ・四診法（舌診、脈診、腹診、背候診）ができる ・証の決定、治法に応じた治療方針、選穴ができる。 ・灸頭鍼、隔物灸、各種吸角療法を正しく行うことができる。 ・治法に応じた鍼通電療法が正確に行う事ができる。 ・奇経治療を用いた婦人科鍼灸治療ができる。

【担当教員から】

教科書	
参考書	
成績評価基準	授業の理解度 基本的技術の習得 技術の応用力 以上を学期末試験にて評価を行う。
成績評価方法	1 成績の評価は、試験の成績、実習の成果及び履修状況等を総合的に勘案して行う。 但し、授業時間数における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。 2 成績評価の基準は次のとおりとし、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。 (1) A : 100～90点 (2) B : 89～70点 (3) C : 69～60点 (4) D : 60点未満
授業時間外必要な学修	
履修にあたっての留意点	必要に応じ実技を行うに当たり支障が生じないように、短パンなどを準備しておく

【授業計画】 はりきゅう応用実技Ⅱ 2022年度 I 部 鍼灸マッサージ科

学期	回数	講義内容	備考	講義形態
----	----	------	----	------

前期	1	1) 現代医学的な鍼灸療法 (1) 代表 4 疾患の治療 復習 1. 腰下肢痛 2. 膝関節痛	頸肩背部痛・腰下肢痛	実技
	2	1) 現代医学的な鍼灸療法 (1) 代表 4 疾患の治療 復習 3. 頸肩腕痛 4. 肩関節痛	肩関節痛・膝関節痛	実技
	3	1) 現代医学的な鍼灸療法 (1) 代表 4 疾患の治療 復習 1. 腰下肢痛 2. 膝関節痛 ロールプレイ	ロールプレイ、医療面接、身体診察、病態把握・鍼灸治療計画立案	実技
	4	1) 現代医学的な鍼灸療法 (1) 代表 4 疾患の治療 復習 3. 頸肩腕痛 4. 肩関節痛 ロールプレイ		実技
	5	1) 現代医学的な鍼灸治療 (2) 代表 4 疾患の治療 各論 2. 腰下肢痛 ①腰痛	腰痛	実技
	6	1) 現代医学的な鍼灸治療 (2) 代表 4 疾患の治療 各論 2. 腰下肢痛②下肢神経障害	腰部神経根症	実技
	7	1) 現代医学的な鍼灸治療 (2) 代表 4 疾患の治療 各論 4. 膝関節痛 ①変形性膝関節症等	膝痛の病態、鍼灸治療、生活指導	実技
	8	1) 現代医学的な鍼灸治療 (2) 代表 4 疾患の治療 各論 1. 頸肩腕痛 ①肩こり	肩こり	実技
	9	1) 現代医学的な鍼灸治療 (2) 代表 4 疾患の治療 各論 1. 頸肩腕痛②頸椎性神経根症 ③胸郭出口症候群	頸椎性神経根症・胸郭出口症候群	実技
	10	1) 現代医学的な鍼灸治療 (2) 代表 4 疾患の治療 各論 1. 頸肩腕痛④上肢の絞扼性末梢神経障害	上肢の絞扼性末梢神経障害	実技
	11	1) 現代医学的な鍼灸治療 (2) 代表 4 疾患の治療 各論 1. 頸肩腕痛⑤上肢症状に対する応用臨床	上肢症状に対する応用臨床	実技
	12	1) 現代医学的な鍼灸治療 (2) 代表 4 疾患の治療 各論 3. 肩関節痛 ①肩関節周囲炎等	肩痛、鍼灸治療、生活指導	実技
	13			実技
	14	1) 現代医学的な鍼灸療法 (1) 代表 4 症状の治療および施灸の復習	(1) 代表 4 症状の医療面接・身体診察 (徒手検査法) 鍼灸治療	実技
	15			実技
	16	前期試験：実技総合試験②		試験
	17	前期試験：実技総合試験②		試験
	18	まとめ		実技
後期	19	傾聴と自律神経調整法・リラクゼーション法の学習	傾聴と自律神経調整法	実技
	20	舌診の基礎知識を学習する	舌診断	実技
	21	舌診に基づく治療を学習する	舌診断による治療	実技
	22	脈状診の学習	脈状診	実技
	23	脈状診に基づく治療の学習	脈状診による治療	実技
	24	腹診を学習する	腹診断	実技
	25	腹診に基づく治療を学習する	腹診断による治療	実技
	26	四診合一に基づく治療の学習	四診合一診断と治療	実技
	27	循行経絡・経筋治療	循行経絡と経筋治療	実技
	28	太陰サイクル治療（肺-大腸-胃-脾の循環を 活性化）を履修	同名サイクル治療	実技
	29	少陰サイクル治療（心-小腸-膀胱-腎の循環を 活性化）を履修	同名サイクル治療	実技
	30	厥陰サイクル治療（心包-三焦-胆-肝の循環を 活性化）を履修	同名サイクル治療	実技
	31	吸角法を学習する	吸角の操作	実技
	32	各種吸角法を学習する	青龍吸角法	実技
	33	温灸法を学習する	温灸法	実技
	34	灸頭鍼法を学習する	灸頭鍼	実技
	35	鍼通電法を学習する	鍼通電	実技
	36	鍼通電法を学習する	鍼通電	実技

学期	回数	講義内容	担当者確認	主任確認	
前期	1	1) 現代医学的な鍼灸療法 (1) 代表 4 疾患の治療 復習 1. 腰下肢痛 2. 膝関節痛			
	2	1) 現代医学的な鍼灸療法 (1) 代表 4 疾患の治療 復習 3. 頸肩腕痛 4. 肩関節痛			
	3	1) 現代医学的な鍼灸療法 (1) 代表 4 疾患の治療 復習 1. 腰下肢痛 2. 膝関節痛 ロールプレイ			
	4	1) 現代医学的な鍼灸療法 (1) 代表 4 疾患の治療 復習 3. 頸肩腕痛 4. 肩関節痛 ロールプレイ			
	5	1) 現代医学的な鍼灸治療 (2) 代表 4 疾患の治療 各論 2. 腰下肢痛 ①腰痛			
	6	1) 現代医学的な鍼灸治療 (2) 代表 4 疾患の治療 各論 2. 腰下肢痛②下肢神経障害			
	7	1) 現代医学的な鍼灸治療 (2) 代表 4 疾患の治療 各論 4. 膝関節痛 ①変形性膝関節症等			
	8	1) 現代医学的な鍼灸治療 (2) 代表 4 疾患の治療 各論 1. 頸肩腕痛 ①肩こり			
	9	1) 現代医学的な鍼灸治療 (2) 代表 4 疾患の治療 各論 1. 頸肩腕痛②頸椎性神経根症			
	10	1) 現代医学的な鍼灸治療 (2) 代表 4 疾患の治療 各論 1. 頸肩腕痛④上肢の絞扼性末梢神経障害			
	11	1) 現代医学的な鍼灸治療 (2) 代表 4 疾患の治療 各論 1. 頸肩腕痛⑤上肢症状に対する応用臨床			
	12	1) 現代医学的な鍼灸治療 (2) 代表 4 疾患の治療 各論 3. 肩関節痛 ①肩関節周囲炎等			
	13				
	14	1) 現代医学的な鍼灸療法 (1) 代表 4 症状の治療および施灸の復習			
	15				
	16	前期試験：実技総合試験②			
	17	前期試験：実技総合試験②			
	18	まとめ			
後期	19	傾聴と自律神経調整法・リラクゼーション法の学習			
	20	舌診の基礎知識を学習する			
	21	舌診に基づく治療を学習する			
	22	脈状診の学習			
	23	脈状診に基づく治療の学習			
	24	腹診を学習する			
	25	腹診に基づく治療を学習する			
	26	四診合一に基づく治療の学習			
	27	循行経絡・経筋治療			
	28	太陰サイクル治療（肺-大腸-胃-脾の循環を 活性化）を履修			
	29	少陰サイクル治療（心-小腸-膀胱-腎の循環を 活性化）を履修			
	30	厥陰サイクル治療（心包-三焦-胆-肝の循環を 活性化）を履修			
	31	吸角法を学習する			
	32	各種吸角法を学習する			
	33	温灸法を学習する			
	34	灸頭鍼法を学習する			
	35	鍼通電法を学習する			
	36	鍼通電法を学習する			

【分野】 専門分野 臨床実習

【科目】 臨床実習Ⅲ

【基本情報】

配当年次	3 学年	担当教員		
単位数	1 単位		実務経験	
開講学期	前後期	授業形態・回数	講義・演習	24回

【授業情報】

授業概要	<ul style="list-style-type: none"> 臨床実習Ⅲでは数人のグループで鍼灸施術を行い、臨床実践を通して鍼灸師としての必要な知識、技術、コミュニケーション能力などを培う実習となります。 また、外部臨床実習として、連日同一あはき施術所にて実習を行い、実習指導者やスタッフ、患者とのコミュニケーション能力を培うと共に、施術見学および補助に携わることで、あはき師としての責任感を養う事を目的に行います。また、将来の就職を念頭に業務の一端を担う事で、現場で求められている治療以外の仕事の重要性を認識することも目的としています。
授業の一般目標 (GIO)	<ul style="list-style-type: none"> 3年次の座学や実技で学習する医療面接、身体診察法について、附属施術所にて患者に対し実践することで、授業では学習しにくい医療面接における傾聴や共感、質問法による病態の絞り込み、信頼関係を構築するコミュニケーション能力、適切な身体診察法の選択や実施の難しさと重要性を理解する。 病態の推定や治療を考える事で、診察での情報収集の大切さや目的を理解させる。 SOAPに沿った診療録(POMR)を記載することで治療の振り返りを行い、気づきを促し今後の能力向上に努める。 同一患者を連続で施術し経過を追うことで、治療の有効性などを検証し、症例報告書として纏める力をつける。 学内・学外にてあはき施術所の業務体験を行う事で治療以外の業務の大切さを理解する。

【担当教員から】

教科書	
参考書	
成績評価基準	評価の観点とは 1) 実習中における態度、実技習得度、課題の内容
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 学内：課題レポート（実習記録）による評価 学外：臨地見学実習レポート（デイリーノート、振り返りノート） 実習指導者による評価表 成績評価の基準は次のとおりとし、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。 (1) A：100～90点 (2) B：89～70点 (3) C：69～60点 (4) D：60点未満
授業時間外必要な学修	
履修にあたっての留意点	必要に応じ実技を行うに当たり支障が生じないように、短パンなどを準備しておく

【授業計画】 臨床実習Ⅲ 2021年度 鍼灸マッサージ科

学期	回数	講義内容	行動目標 (SB0s)	講義形態
----	----	------	-------------	------

1	臨床基礎実習 ・臨床実習前の説明	・症例報告書を作成する方法を理解できる ・4疾患の医療面接、徒手検査法ができる	講義 実習
2	・医療面接、徒手検査法などの復習		
3	臨床実習4-1 2～3人の班毎に、同一の患者を4回連続で	・適切に医療面接ができる ・適切に身体所見をとる事ができる ・適切に病態を推定する事ができる ・適切に治療を考える事ができる ・適切に刺鍼・施灸ができる ・適切に生活指導などができる ・適切に診療録を記載できる ※この後、症例報告書を作成できる	実習
4	鍼灸施術を担当する		
5	臨床実習4-2 2～3人の班毎に、同一の患者を4回連続で		実習
6	鍼灸施術を担当する		
7	臨床実習4-3 2～3人の班毎に、同一の患者を4回連続で		実習
8	鍼灸施術を担当する		
9	臨床実習4-3 2～3人の班毎に、同一の患者を4回連続で		実習
10	鍼灸施術を担当する		
11	外部臨床実習3-1 3日間連続で、同一あはき治療院にて実習を行う	・時間管理ができる ・実習指導者、スタッフ、患者さんと良好なコミュニケーションをとることができる ・実習指導者の指示通り、行動できる ・1日の業務を理解し、遂行することができる ・1日の実習についてまとめ、レポートを記載できる	実習
12			
13			
14			
15			
16	外部臨床実習3-2 3日間連続で、同一あはき治療院にて実習を行う		実習
17			
18			
19			
20			
21	外部臨床実習3-3 3日間連続で、同一あはき治療院にて実習を行う		実習
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			
33			
34			
35			
36			

【科目】 臨床実習Ⅳ

【基本情報】

配当年次	3 学年	担当教員		
単位数	1 単位		実務経験	
開講学期	前後期	授業形態・回数	講義・演習	24回

【授業情報】

授業概要	<ul style="list-style-type: none"> 臨床実習Ⅲでは数人のグループで鍼灸施術を行い、臨床実践を通して鍼灸師としての必要な知識、技術、コミュニケーション能力などを培う実習となります。 また、外部臨床実習として、連日同一あはき施術所にて実習を行い、実習指導者やスタッフ、患者とのコミュニケーション能力を培うと共に、施術見学および補助に携わることで、あはき師としての責任感を養う事を目的に行います。また、将来の就職を念頭に業務の一端を担う事で、現場で求められている治療以外の仕事の重要性を認識することも目的としています。
授業の一般目標 (G10)	<ul style="list-style-type: none"> 3年次の座学や実技で学習する医療面接、身体診察法について、附属施術所にて患者に対し実践することで、授業では学習しにくい医療面接における傾聴や共感、質問法による病態の絞り込み、信頼関係を構築するコミュニケーション能力、適切な身体診察法の選択や実施の難しさや重要性を理解する。 病態の推定や治療を考える事で、診察での情報収集の大切さや目的を理解する。 SOAPに沿った診療録 (POMR) を記載することで治療の振り返りを行い、気づきを促し今後の能力向上に努める。 症例発表を通じて要点をまとめ、また他班の症例報告から多くの有用な情報を得ることができることを理解する。 学内・学外にてあはき施術所の業務体験を行う事で治療以外の業務の大切さを理解する。

【担当教員から】

教科書	
参考書	
成績評価基準	評価の観点とは 1) 実習中における態度、実技習得度、課題の内容
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 学内：課題レポート（実習記録）による評価 学外：臨地見学実習レポート（デイリーノート、振り返りノート） 実習指導者による評価表 <p>成績評価の基準は次のとおりとし、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。</p> <p>(1) A：100～90点 (2) B：89～70点 (3) C：69～60点 (4) D：60点未満</p>
授業時間外必要な学修	
履修にあたっての留意点	必要に応じ実技を行うに当たり支障が生じないように、短パンなどを準備しておく

【授業計画】 臨床実習Ⅳ 2022年度 I 部 鍼灸マッサージ科

学期	回数	講義内容	行動目標 (SB0s)	講義形態
	1	外部臨床実習Ⅳ ガイダンス	臨地実習についての説明 書類配布など	講義

2	外部臨床実習Ⅲ カリキュラム	臨床実習Ⅲについての説明、書類配付など	実習
3	症例報告会	・臨床実習Ⅲで治療を行った患者さんの 症例報告書を作成できる ・各班毎に症例発表を行う事ができる	実習
4			
5	臨床実習5-1 2人の1組で班を作り、あま指施術にて1人で	・適切に医療面接ができる ・適切に身体所見をとる事ができる ・適切に病態を推定する事ができる ・適切に治療を考える事ができる ・適切にあま指施術を行うことができる ・適切に生活指導などができる ・適切に診療録を記載できる	実習
6	1人ずつ施術を担当する		
7	臨床実習5-2 2人の1組で班を作り、あま指施術にて1人で		実習
8	1人ずつ施術を担当する		
9	臨床実習5-3 2人の1組で班を作り、あま指施術にて1人で	実習	
10	1人ずつ施術を担当する		
11	外部臨床実習4-1 3日間連続で、同一あはき治療院にて実習を行う		実習
12			
13			
14			
15	外部臨床実習4-2 3日間連続で、同一あはき治療院にて実習を行う	・時間管理ができる ・実習指導者、スタッフ、患者さんと 良好なコミュニケーションをとること ができる ・実習指導者の指示通り、行動できる ・1日の業務を理解し、遂行することが できる ・1日の実習についてまとめ、レポートを 記載できる	実習
16			
17			
18			
19	外部臨床実習4-3 3日間連続で、同一あはき治療院にて実習を行う		実習
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			
33			
34			
35			
36			

【科目】 あはき総合学(解剖学)

【基本情報】

配当年次	3 学年	担当教員	柳原 功典	
単位数	1 単位		実務経験	
開講学期	3 学期	授業形態・回数	講義	12回

【授業情報】

授業概要	<p>生体の構造機能を学ぶことは医学的な専門科目を学ぶ上での基礎となり、正常な構造機能が破綻した状態である疾病を理解するための基盤として重要であるため、人体の正常な構造機能を学んでいく。</p> <p>今までに学んだ解剖学をもとに、国家試験に出題される範囲を中心に、講義と問題演習を行う。</p>
授業の一般目標 (GIO)	<p>人が罹患する疾病を理解するために、医療従事者の共通用語である人体の各器官の機能について理解するとともに、その評価方法についても学習する。国家試験に合格するために、解剖学について、理解を深め、国家試験レベルの問題に正しく解答できる力を身につける。</p>
到達目標 (SBOs)	<ul style="list-style-type: none"> ・運動器について理解を深めることができる。 ・循環器消化器について理解を深めることができる。 ・呼吸器泌尿器・生殖器について理解を深めることができる。 ・消化器神経系について理解を深めることができる。 ・泌尿器感覚器について理解を深めることができる。 ・生殖器について理解を深めることができる。 ・内分泌器について理解を深めることができる。 ・神経系について理解を深めることができる。 ・感覚器について理解を深めることができる。

【担当教員から】

教科書	解剖学 (学校協会編)
参考書	
成績評価基準	<p>授業の理解度 基本的知識の習得 知識の応用力 以上を学期末試験にて評価を行う。</p>
成績評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学業成績の評価は、試験の成績、実習の成果及び履修状況等を総合的に勘案して行う。但し、授業時間数における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。 2. 3 期試験に代わって実施される、二次卒業試験の範囲の結果で評価する。
授業時間外必要な学修	教科書、参考書を基に予習・復習を行うこと
履修にあたっての留意点	

【授業計画】 あはき総合学(解剖学) 2022年度 I 部鍼灸マッサージ科

学期	回数	講義内容	備考	講義形態
----	----	------	----	------

1期	1			
	2			
	3			
	4			
	5			
	6			
	7			
	8			
	9			
	10			
	11			
	12			
2期	1			
	2			
	3			
	4			
	5			
	6			
	7			
	8			
	9			
	10			
	11			
	12			
3期	1	復習と発展（運動器）	問題演習	講義
	2	復習と発展（循環器）	問題演習	講義
	3	復習と発展（呼吸器）	問題演習	講義
	4	復習と発展（消化器）	問題演習	講義
	5	復習と発展（泌尿器）	問題演習	講義
	6	復習と発展（生殖器）	問題演習	講義
	7	復習と発展（内分泌器）	問題演習	講義
	8	復習と発展（神経系）	問題演習	講義
	9	復習と発展（感覚器）	問題演習	講義
	10	復習と発展（感覚器）	問題演習	講義
	11	復習と発展（まとめ）	問題演習	講義
	12	復習と発展（まとめ）	問題演習	講義

【授業進度表】 あはき総合学(解剖学) 2022年度 I 部鍼灸マッサージ科				
学期	回数	講義内容	担当者確認	主任確認
	1			
	2			
	3			
	4			

1期	5		
	6		
	7		
	8		
	9		
	10		
	11		
	12		
2期	13		
	14		
	15		
	16		
	17		
	18		
	19		
	20		
	21		
	22		
	23		
	24		
3期	25	復習と発展（運動器）	
	26	復習と発展（循環器）	
	27	復習と発展（呼吸器）	
	28	復習と発展（消化器）	
	29	復習と発展（泌尿器）	
	30	復習と発展（生殖器）	
	31	復習と発展（内分泌器）	
	32	復習と発展（神経系）	
	33	復習と発展（感覚器）	
	34	復習と発展（感覚器）	
	35	復習と発展（まとめ）	
	36	復習と発展（まとめ）	

【分野】 専門分野 総合領域

【科目】 あはき総合学(社会あはき学)

【基本情報】

配当年次	3 学年	担当教員	和田 真紀子	
単位数	1 単位		実務経験	
開講学期	3 学期	授業形態・回数	講義	12回

【授業情報】

授業概要	人口問題から疫学、感染症、生活習慣病、さらには環境問題等の現状と問題点を解説するとともに、健康保持のための個人レベル、社会レベルでの方策について医療を担う一員として学ぶ。今までに学んだ衛生学、関係法規、医療概論、臨床医学総論をもとに、国家試験に出題される範囲を中心に、講義と問題演習を学んでいく。
授業の一般目標 (GIO)	疫学・統計を学ぶことで、あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師として、社会の中で活動していく上で必要な日本の保健衛生の現状を学習する。 国家試験に合格するために、関係法規、衛生学、臨床医学総論について、理解を深め、国家試験レベルの問題に正しく解答できる力を身につける。
到達目標 (SBOs)	<ul style="list-style-type: none"> ・疫学研究の段階、コホート研究と患者対照研究の違いについて理解することができる。 ・免許・試験について理解を深めることができる。 ・業務・罰則・医事関係法規について理解を深めることができる。 ・健康・環境について理解を深めることができる。 ・産業衛生・精神保健・母子保健について理解を深めることができる。 ・臨床医学総論の学習した内容を復習し、理解することができる。 ・衛生学、関係法規、医療概論の学習した内容を復習し、理解することができる。

【担当教員から】

教科書	「関係法規」(学校協会編)「衛生学・公衆衛生学」(学校協会編)
参考書	
成績評価基準	授業の理解度 基本的知識の習得 知識の応用力 以上を学期末試験にて評価を行う。
成績評価方法	1. 学業成績の評価は、試験の成績、実習の成果及び履修状況等を総合的に勘案して行う。 但し、授業時間数における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。 2. 3期試験に代わって実施される、二次卒業試験の範囲の結果で評価する。
授業時間外必要な学修	教科書、参考書を基に予習・復習を行うこと
履修にあたっての留意点	

【授業計画】 あはき総合学(社会あはき学) 2022年度 I 部鍼灸マッサージ科

学期	回数	講義内容	備考	講義形態
	1			
	2			

1期	3			
	4			
	5			
	6			
	7			
	8			
	9			
	10			
	11			
	12			
2期	13			
	14			
	15			
	16			
	17			
	18			
	19			
	20			
	21			
	22			
	23			
	24			
3期	25	疫学、統計資料	疫学研究、コホート研究、 患者対照研究	講義
	26	免許・試験に関する総括	問題演習	講義
	27	業務・罰則・医事関係法規に関する総括	問題演習	講義
	28	現代医療と医療倫理についての総括	問題演習	講義
	29	健康・環境についての総括	問題演習	講義
	30	産業衛生・精神保健・母子保健の総括	問題演習	講義
	31	感染症、消毒全般に関する総括	問題演習	講義
	32	疫学・統計の総括	問題演習	講義
	33	臨床医学総論の復習(全身の診察)	問題演習	講義
	34	臨床医学総論の復習(局所の診察)	問題演習	講義
	35	臨床医学総論の復習(臨床検査)	問題演習	講義
	36	臨床医学総論の復習(治療学)	問題演習	講義

【授業進捗表】 あはき総合学(社会あはき学) 2022年度 I 部鍼灸マッサージ科				
学期	回数	講義内容	担当者確認	主任確認
1期	1			
	2			
	3			
	4			
	5			
	6			
	7			
	8			
	9			
	10			

	11		
	12		
2期	13		
	14		
	15		
	16		
	17		
	18		
	19		
	20		
	21		
	22		
	23		
	24		
3期	25	疫学、統計資料	
	26	免許・試験に関する総括	
	27	業務・罰則・医事関係法規に関する総括	
	28	現代医療と医療倫理についての総括	
	29	健康・環境についての総括	
	30	産業衛生・精神保健・母子保健の総括	
	31	感染症、消毒全般に関する総括	
	32	疫学・統計の総括	
	33	臨床医学総論の復習（全身の診察）	
	34	臨床医学総論の復習（局所の診察）	
	35	臨床医学総論の復習（臨床検査）	
	36	臨床医学総論の復習（治療学）	

【分野】 専門分野 総合領域

【科目】 あはき総合学(リハビリテーション)

【基本情報】

配当年次	3 学年	担当教員	田中 正人	
単位数	3 単位		実務経験	
開講学期	1 学期・2 学期・3 学期	授業形態・回数	講義	36回

【授業情報】

授業概要	2 年時で疾患の基礎について学習したことをふまえ、各疾患別のリハビリテーションの学習を行う。
授業の一般目標 (G10)	リハビリテーションの概念を理解するために、疾患別の障害の定義、分類について習得し、国家試験問題への十分な知識を学習する。
到達目標 (SBOs)	<ul style="list-style-type: none"> ・リハビリテーション医学について理解を深めることができる。 ・理学療法、作業療法、言語聴覚の治療について理解を深めることができる。 ・義肢装具・リハ看護について理解を深めることができる。 ・脳血管障害について理解することができる。 ・脊髄損傷について理解することができる。 ・小児のリハビリテーションについて理解することができる。 ・切断の原因、分類について理解することができる。 ・各関節の動き・骨関節疾患について理解することができる。 ・骨関節疾患・骨折疾患について理解することができる。 ・関節リウマチについて理解することができる。 ・末梢神経麻痺について理解することができる。 ・パーキンソン病について理解することができる。 ・呼吸器疾患、心疾患について理解することができる。 ・運動学と歩行について理解することができる。 ・各疾患のリハビリテーションについて理解を深めることができる。

【担当教員から】

教科書	リハビリテーション医学（東洋療法学校協会編）
参考書	
成績評価基準	授業の理解度 基本的知識の習得 知識の応用力 以上を学期末試験にて評価を行う。
成績評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学業成績の評価は、試験の成績、実習の成果及び履修状況等を総合的に勘案して行う。但し、授業時間数における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。 2. 1 期試験 成績評価の基準は次のとおりとし、A、B、C を合格、D を不合格とする。 (1) A : 100～90点 (2) B : 89～70点 (3) C : 69～60点 (4) D : 60点未満 3. 2、3 期試験に代わって実施される、一、二次卒業試験の範囲の結果で評価する。
授業時間外必要な学修	教科書、参考書を基に予習・復習を行うこと
履修にあたっての留意点	

【授業計画】 あはき総合学(リハビリテーション) 2022年度 I 部鍼灸マッサージ科

学期	回数	講義内容	備考	講義形態
	1	リハビリテーション医学総論	リハビリテーションの概念、歴史	講義
	2	医学的リハビリテーション	障害の概念、ROM、MMT、ADL	講義

1期	3	医学的リハビリテーション	運動麻痺、運動発達、高次脳機能、心理、摂食嚥下、	講義
	4	理学療法	理学療法の治療	講義
	5	理学療法	理学療法・作業療法の治療	講義
	6	作業療法・言語聴覚療法	作業療法・言語聴覚の治療	講義
	7	義肢装具・リハ看護・その他の治療法	補装具、リハ看護、その他の治療	講義
	8	脳血管障害	脳血管障害の症状、合併症、評価	講義
	9	脳血管障害・脊髄損傷	脳血管障害の各時期の治療法、ゴール設定およびリスク管理、脊髄損傷の症状、合併症	講義
	10	脊髄損傷	脊髄損傷の評価、各時期の治療法とリスク管理	講義
	11	試験		試験
	12	まとめ		講義
2期	13	小児	小児のリハビリテーションの特徴、脳性麻痺の定義、分類	講義
	14	小児	脳性麻痺の評価、治療	講義
	15	切断	切断の原因、分類、合併症	講義
	16	切断	切断の治療	講義
	17	骨折関節疾患	骨折のリハビリテーション	講義
	18	骨関節疾患	各関節症のリハビリテーション	講義
	19	関節リウマチ	リウマチのリハビリテーション	講義
	20	末梢神経麻痺	末梢神経麻痺のリハビリテーション	講義
	21	パーキンソン病	パーキンソン病のリハビリテーション	講義
	22	呼吸器疾患	呼吸器疾患のリハビリテーション	講義
	23	心疾患	心疾患のリハビリテーション	講義
	24	まとめ		講義
3期	25	医学的リハビリテーションの復習	医学的リハビリテーション	講義
	26	医学的リハビリテーションの復習		講義
	27	治療法の復習	各治療法	講義
	28	脳血管障害のリハビリテーションの復習	脳血管障害のリハビリテーション	講義
	29	脊髄損傷のリハビリテーションの復習	脊髄損傷のリハビリテーション	講義
	30	小児のリハビリテーションの復習	小児のリハビリテーション	講義
	31	切断のリハビリテーションの復習	切断のリハビリテーション	講義
	32	骨関節疾患のリハビリテーションの復習	骨関節疾患のリハビリテーション	講義
	33	関節リウマチのリハビリテーションの復習	関節リウマチのリハビリテーション	講義
	34	末梢神経麻痺のリハビリテーションの復習	末梢神経麻痺のリハビリテーション	講義
	35	パーキンソン病のリハビリテーションの復習	パーキンソン病のリハビリテーション	講義
	36	まとめ		講義

【授業進捗表】 あはき総合学(リハビリテーション) 2022年度 I 部鍼灸マッサージ科				
学期	回数	講義内容	担当者確認	主任確認
1期	1	リハビリテーション医学総論		
	2	医学的リハビリテーション		
	3	医学的リハビリテーション		
	4	理学療法		
	5	理学療法		
	6	作業療法・言語聴覚療法		
	7	義肢装具・リハ看護・その他の治療法		

	8	脳血管障害		
	9	脳血管障害・脊髄損傷		
	10	脊髄損傷		
	11	試験		
	12	まとめ		
2期	13	小児		
	14	小児		
	15	切断		
	16	切断		
	17	骨折関節疾患		
	18	骨関節疾患		
	19	関節リウマチ		
	20	末梢神経麻痺		
	21	パーキンソン病		
	22	呼吸器疾患		
	23	心疾患		
	24	まとめ		
3期	25	医学的リハビリテーションの復習		
	26	医学的リハビリテーションの復習		
	27	治療法の復習		
	28	脳血管障害のリハビリテーションの復習		
	29	脊髄損傷のリハビリテーションの復習		
	30	小児のリハビリテーションの復習		
	31	切断のリハビリテーションの復習		
	32	骨関節疾患のリハビリテーションの復習		
	33	関節リウマチのリハビリテーションの復習		
	34	末梢神経麻痺のリハビリテーションの復習		
	35	パーキンソン病のリハビリテーションの復習		
	36	まとめ		

【科目】 あはき総合学(生理学・病理学)

【基本情報】

配当年次	3 学年	担当教員	金子 泰久	
単位数	2 単位		実務経験	
開講学期	2 学期・3 学期	授業形態・回数	講義	24回

【授業情報】

授業概要	今までに学んだ「生理学」「病理学」をもとに、国家試験に出題される範囲を中心に、講義と問題演習を行い、合格する為の力と臨床に応用することができる知識を身につける。
授業の一般目標 (GIO)	国家試験に合格するために、「生理学」「病理学」について総括し理解を深め、国家試験レベルの問題に正しく解答できる力を身につける。
到達目標 (SBOs)	<ul style="list-style-type: none"> ・生理学の基礎について理解を深めることができる。 ・呼吸について理解を深めることができる。 ・消化と吸収、代謝について理解を深めることができる。 ・排泄について理解を深めることができる。 ・感覚について理解を深めることができる。 ・病理学の基礎について理解を深めることができる。 ・病因について理解を深めることができる。 ・退行性病変、進行性病変について理解を深めることができる。 ・神経について理解を深めることができる。 ・アレルギーについて理解を深めることができる。 ・腫瘍について理解を深めることができる。 ・鍼灸治効理論について理解を深めることができる。

【担当教員から】

教科書	生理学（第3版）：東洋療法学校協会編 病理学（第2版）：東洋療法学校協会編
参考書	
成績評価基準	授業の理解度 基本的知識の習得 知識の応用力 以上を学期末試験にて評価を行う。
成績評価方法	1. 学業成績の評価は、試験の成績、実習の成果及び履修状況等を総合的に勘案して行う。 但し、授業時間数における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。 2. 2、3 期試験に代わって実施される、一、二次卒業試験の範囲の結果で評価する。
授業時間外必要な学修	教科書、参考書を基に予習・復習と発展を行うこと
履修にあたっての留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中のスマートフォン、携帯電話の使用は原則禁止 ・教科書中心の予習、復習と発展をすること

学期	回数	講義内容	備考	講義形態
1期	1			
	2			
	3			
	4			
	5			
	6			
	7			
	8			
	9			
	10			
	11			
	12			
2期	13	復習と発展（生理学の基礎）	生命現象とホメオスタシス	講義
	14	復習と発展（呼吸）	呼吸、ホメオスタシス	講義
	15	復習と発展（消化と吸収・代謝）	栄養摂取、摂食から代謝まで	講義
	16	復習と発展（排泄）	人体にとって重要な排泄	講義
	17	復習と発展（体温・生殖と発生）	体温維持に関与する仕組み	講義
	18	復習と発展（感覚）	特殊感覚の仕組み、伝導路	講義
	19	復習と発展（病理学の基礎）	病理学の基本	講義
	20	復習と発展（病因）	内因、外因	講義
	21	復習と発展（退行性病変）	退行性病変の意味と現象	講義
	22	復習と発展（進行性病変）	進行性病変の意味と現象、創傷治癒	講義
	23	復習と発展（まとめ）	問題演習	講義
	24	復習と発展（まとめ）	問題演習	講義
3期	25	復習と発展（神経：伝導と伝達）	興奮の伝導、伝達	講義
	26	復習と発展（神経：中枢神経・末梢神経）	中枢神経系、末梢神経系	講義
	27	復習と発展（神経：脳）	脳の機能局在、中枢	講義
	28	復習と発展（アレルギー）	アレルギーの仕組みと特徴	講義
	29	復習と発展（腫瘍）	悪性腫瘍と良性腫瘍	講義
	30	復習と発展（腫瘍）	腫瘍の分類	講義
	31	復習と応用（鍼灸治効理論への応用）	鎮痛と発痛	講義
	32	復習と応用（鍼灸治効理論への応用）	鍼灸刺激の伝導路	講義
	33	復習と応用（鍼灸治療への応用）	生理学・病理学的な様々な現象	講義
	34	復習と応用（鍼灸治療への応用）		講義
	35	まとめ（生理学）	問題演習	講義
	36	まとめ（病理学）	問題演習	講義

【授業進度表】 あはき総合学(生理学・病理学) 2022年度 I 部鍼灸マッサージ科				
学期	回数	講義内容	担当者確認	主任確認
	1			
	2			
	3			

1期	4		
	5		
	6		
	7		
	8		
	9		
	10		
	11		
	12		
2期	13	復習と発展（生理学の基礎）	
	14	復習と発展（呼吸）	
	15	復習と発展（消化と吸収・代謝）	
	16	復習と発展（排泄）	
	17	復習と発展（体温・生殖と発生）	
	18	復習と発展（感覚）	
	19	復習と発展（病理学の基礎）	
	20	復習と発展（病因）	
	21	復習と発展（退行性病変）	
	22	復習と発展（進行性病変）	
	23	復習と発展（まとめ）	
	24	復習と発展（まとめ）	
3期	25	復習と発展（神経：伝導と伝達）	
	26	復習と発展（神経：中枢神経・末梢神経）	
	27	復習と発展（神経：脳）	
	28	復習と発展（アレルギー）	
	29	復習と発展（腫瘍）	
	30	復習と発展（腫瘍）	
	31	復習と応用（鍼灸治効理論への応用）	
	32	復習と応用（鍼灸治効理論への応用）	
	33	復習と応用（鍼灸治療への応用）	
	34	復習と応用（鍼灸治療への応用）	
	35	まとめ（生理学）	
	36	まとめ（病理学）	



【科目】

あはき総合学(東洋医学概論・経絡経穴概論)

【基本情報】

配当年次	3 学年	担当教員	岡田 智和	
単位数	1 単位		実務経験	
開講学期	3 学期	授業形態・回数	講義	12回

【授業情報】

授業概要	今までに学んだ「東洋医学概論」「経絡経穴概論」をもとに、国家試験に出題される範囲を中心に、講義と問題演習を行い、合格する為の力と臨床に応用することができる知識を身につける。
授業の一般目標 (GIO)	国家試験に合格するために、「東洋医学概論」「経絡経穴概論」について総括し理解を深め、国家試験レベルの問題に正しく解答できる力を身につける。
到達目標 (SBOs)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 弁証論治・骨度法・接続部位について理解を深めることができる。 ・ 弁証論治・要穴について理解を深めることができる。 ・ 四診法・十四経脈（督脈～肝経）について理解を深めることができる。 ・ 十二経脈病証について理解を深めることができる。 ・ 奇経八脈病証・奇穴について理解を深めることができる。

【担当教員から】

教科書	新版 東洋医学概論・新版 経絡経穴概論（東洋療法学校協会編）
参考書	経絡演習図（呉竹学園編） 東洋医学概論（東洋療法学校協会編）
成績評価基準	授業の理解度 基本的知識の習得 知識の応用力 以上を学期末試験にて評価を行う。
成績評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学業成績の評価は、試験の成績、実習の成果及び履修状況等を総合的に勘案して行う。但し、授業時間数における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。 2. 3 期試験に代わって実施される、二次卒業試験の範囲の結果で評価する。
授業時間外必要な学修	教科書、参考書を基に予習・復習を行うこと
履修にあたっての留意点	スマホ・タブレットは指示に従って使用すること。

【授業計画】あはき総合学(東洋医学概論・経絡経穴概論)2022年度 I 部鍼灸マッサージ科

学期	回数	講義内容	備考	講義形態
	1			
	2			
	3			
	4			

1期	5			
	6			
	7			
	8			
	9			
	10			
	11			
	12			
2期	13			
	14			
	15			
	16			
	17			
	18			
	19			
	20			
	21			
	22			
	23			
	24			
3期	25	弁証論治・骨度法・接続部位	弁証論治、骨度法や経絡の接続部位	講義
	26	弁証論治・要穴	弁証論治、要穴の解剖学的位置	講義
	27	弁証論治・要穴		講義
	28	四診法・十四経脈（督脈～肺経）	四診法、十四経脈	講義
	29	四診法・十四経脈（大腸経～脾経）		講義
	30	四診法・十四経脈（心経～膀胱経）		講義
	31	四診法・十四経脈（腎経～肝経）		講義
	32	総復習		講義
	33	十二経脈病証	十二経脈病証	講義
	34	奇経八脈病証・奇穴の復習	奇経八脈、奇穴の解剖学的位置と主治	講義
	35	総復習	問題演習	講義
	36	総復習	問題演習	講義

【授業進度表】 あはき総合学（東洋医学概論・経絡経穴概論）2022年度 I 部鍼灸マッサージ科

学期	回数	講義内容	担当者確認	主任確認	
1期	1				
	2				
	3				
	4				
	5				
	6				
	7				
	8				

	9		
	10		
	11		
	12		
2期	13		
	14		
	15		
	16		
	17		
	18		
	19		
	20		
	21		
	22		
	23		
	24		
3期	25	弁証論治・骨度法・接続部位	
	26	弁証論治・要穴	
	27	弁証論治・要穴	
	28	四診法・十四経脈（督脈～肺経）	
	29	四診法・十四経脈（大腸経～脾経）	
	30	四診法・十四経脈（心経～膀胱経）	
	31	四診法・十四経脈（腎経～肝経）	
	32	総復習	
	33	十二経脈病証	
	34	奇経八脈病証・奇穴の復習	
	35	総復習	
	36	総復習	